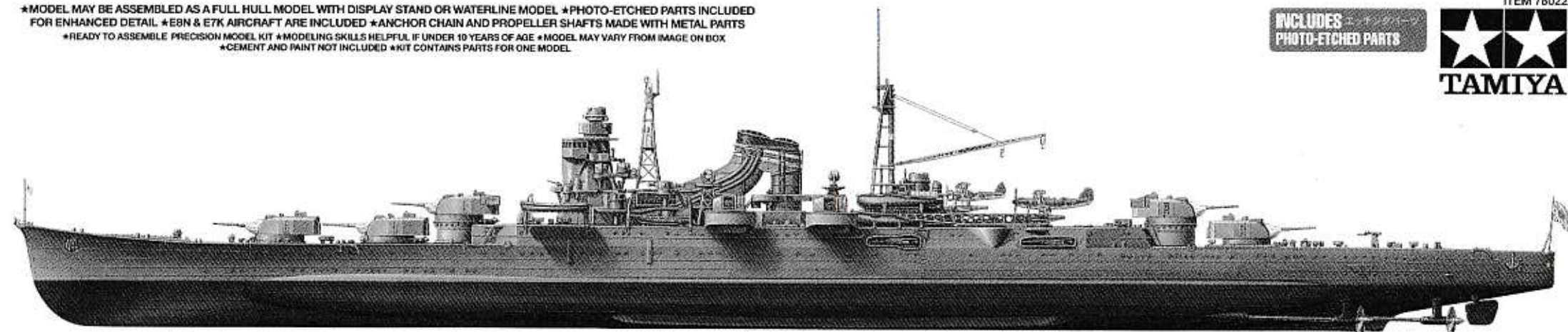


INCLUDES
PHOTO-ETCHED PARTS



*MODEL MAY BE ASSEMBLED AS A FULL HULL MODEL WITH DISPLAY STAND OR WATERLINE MODEL *PHOTO-ETCHED PARTS INCLUDED FOR ENHANCED DETAIL *E8N & E7K AIRCRAFT ARE INCLUDED *ANCHOR CHAIN AND PROPELLER SHAFTS MADE WITH METAL PARTS
*READY TO ASSEMBLE PRECISION MODEL KIT *MODELING SKILLS HELPFUL IF UNDER 10 YEARS OF AGE *MODEL MAY VARY FROM IMAGE ON BOX
*CEMENT AND PAINT NOT INCLUDED *KIT CONTAINS PARTS FOR ONE MODEL



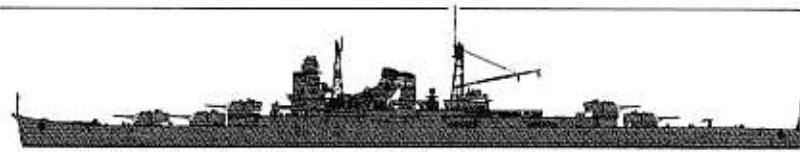

JAPANESE LIGHT CRUISER MIKUMA
三隈

1/350 艦船シリーズ NO.22

日本軽巡洋艦 三隈



JAPANESE LIGHT CRUISER MIKUMA 三隈



■軽巡「三隈」の登場

軽巡洋艦「三隈」は昭和6年12月24日に三菱長崎造船所で起工され、昭和9年5月に進水、翌昭和10年8月29日に竣工しました。

「三隈」は、昭和5年に補助艦艇の制限を主な目的としてロンドンで開催された軍縮条約に基づき、昭和6年に承認された第一次艦艇補充計画(通称①計画)で企画された最上型軽巡洋艦の2番艦です。このとき日本に許されていた15.5cm以下の砲搭載巡洋艦(乙巡)の保有枠は100,450トンでした。そのうち、退役予定の平戸型と昭和11年には艦齢が古くなる天龍型、および球磨型の「球磨」「多摩」の代艦として起工可能なトン数に、条約で認められた特例枠を加えた50,955トンが建造可能となったのです。

第一次艦艇補充計画は8,500トン型巡洋艦4隻と駆逐艦12隻、潜水艦9隻、その他艦艇4隻の合計39隻を昭和11年までの6カ年計画で建造しようとするものでした。

海軍軍令部はロンドン条約による甲型巡洋艦(重巡)の劣勢を補完として、制限一杯の8,500トンの船体に15.5cm三連装砲塔5基、61cm魚雷発射管三連装4基、12.7cm連装高角砲4基を搭載しつつ、耐弾防御は20.3cm砲弾とし、かつ速力37ノット、航続力14ノットで8,000海里という過大な要求を行います。中でも主砲の15.5cm砲は航空機の発達に対応して対空射撃も可能な、仰角55度を有する長砲身60口径。主力重巡の20.3cm砲よりも散布界が狭い優秀な火砲でした。一方、高角砲も重巡に先駆けて採用されたばかりの八九式12.7cm連装砲を搭載。さらに対空機銃も25mm連装4基と艦橋防衛用の13mm連装2基を装備して、主砲以外は高機動型や妙高型の重巡洋艦を凌駕する高性能を目指したのです。主任設計者として藤本喜久夫造船大佐が当たり、基本計画の段階から主砲の15.5cm三連装は軍縮条約開けには20.3cm連装砲に換装が可能ないように考慮されました。さらに新式兵装の装備要求で船艙重量は計画よりも上昇していったのです。

そこで極端なまでの軽量化を図ったものの、軍令部の要求すべてを満たしたことで、結果的に基準排水量は9,500トンとなり、重心点も高めで復元力に欠けるきらいがありました。

昭和9年3月12日、佐世保港外で訓練中の新鋭水雷艦「友鶴」が旋回中に突然転覆するという、いわゆる「友鶴事件」が発生しました。原因は復元力の不足とされ、このため進水直前の「三隈」や進水したばかりの「最上」を含め、当時建造中であった各艦艇は、復元力不足に対応するため再検討が行われることとなりました。当初予定されていた艦艇は小型のコンパクトなものに改正され、併せてバラスト搭載などの対策が行われました。しかし「最上」の公試運転中に船体各部に亀裂や歪みが発生したため、

さらに船体の補強を行ったことで、排水量は計画を2,000トン近く上回る11,200トンまで増大。公試速力は36ノットに留まりました。

また「三隈」の竣工直後、繰り広げられた昭和10年度海軍大演習に、就役直後の「三隈」は「最上」とともに勇躍参加しましたが、三隈沖で超大型の台風に遭遇するという「第四艦隊事件」に巻き込まれてしまいます。波長200mを超える大波は特型駆逐艦や軽空母「龍驤」に大きな損傷を与え、「三隈」と「最上」も航行中に激しい振動と異音を生じて船体外板が変形するほどでした。

この事件により主要艦艇は再び船体強度に対する検討が行われます。最上型4隻も溶接構造の方法及び適用範囲の問題、重量軽減のため発生した構造材の強度不足などが指摘されました。この対策のため「三隈」は翌昭和11年4月から12年10月まで、「最上」については昭和11年4月から13年2月まで、それぞれ別の建造所において船体補強の性能改善工事が行われたのです。

3番艦の「鈴谷」、4番艦の「熊野」は建造途中に設計変更が行われ、昭和12年10月31日の「熊野」竣工に併せて「三隈」も改造が完了。「三隈」「鈴谷」「熊野」の3隻は昭和12年12月1日付けで艦隊に編入され、第二艦隊第七戦隊を編成しました。

「三隈」は竣工時と比べ後構の高さが大きく縮小され、大型バルジの装着とカタバルト基部の形状変更など、後に重巡に改装された時の船体はこの段階で形作られています。これにより基準排水量は約12,000トンに達し、最大速力は35ノットに低下したものの、性能的にはきわめて良好な巡洋艦となったのです。

折からの日中戦争勃発に、第七戦隊は大陸沿岸に出勤し、精悍な姿を見せました。搭載機は九五式二座水偵と九四式三座水偵となり、戦場への進出に際して進給塗装を施されています。

■ロンドン条約脱退と重巡への改装

昭和9年6月、第二次ロンドン会議の予備交渉が持たれました。日本は列強との不平等を改正すべく、新軍縮条約として戦艦、航空母艦、重巡洋艦の主力艦をすべて廃棄し、軽巡以下の艦艇を平等に配備するという提案を行ないましたが、もとより列強の入れる所とはならず、規約に従い同年12月29日をもって条約からの脱退を申し入れ、翌昭和10年の第二次ロンドン会議において条約脱退を通告します。

昭和9年末の申し入れに続く脱退通告により、昭和11年末をもってロンドン条約はワシントン条約とともに効力を失うこととなり、日本は無条約国として他から制約を受けない軍備を実施することが可能となったのです。すでに条約脱退を想定して準備を進めていた海軍は、昭和12年に策定された第三次艦艇補充計画により大和型戦艦2隻、翔鶴型航空母艦2隻

の建造と、戦艦・重巡洋艦の近代化改装工事に着手し、建造途中であった軽巡利根型は20.3cm砲搭載の重巡に変更するとともに、最上型軽巡4隻も当初の予定どおり、主砲の換装工事に着手しました。

「三隈」は昭和14年6月1日より同年末まで、「最上」は昭和14年1月31日より翌年4月30日まで、「鈴谷」は昭和14年1月31日より同年12月20日まで、「熊野」も昭和14年5月20日より同年末まで工事を進め、昭和15年に行われた紀元2600年記念観艦式には改装された「最上」「鈴谷」「熊野」の3隻が「利根」「筑摩」とともに受調艦として参加しています。

この改装では、主砲の換装のほか、魚雷発射管が九〇式から九三式酸素魚雷に変更され、前構トップには魚雷の発射指揮所が新設されましたが、酸素魚雷の長射程を秘匿するため、体勢観測所という名称で呼ばれていきます。また昭和16年後半には臨戦準備には改裝された「最上」「鈴谷」「熊野」の3隻が「利根」「筑摩」とともに受調艦として参加しています。

■「三隈」ミッドウェー沖に没す

太平洋戦争の開戦時「三隈」を始めとする最上型4隻は「熊野」を旗艦に栗田少将の指揮下、第二艦隊第七戦隊を編成し、マレー上陸部隊の護衛部隊として上陸作戦を支援しました。

翌昭和17年2月のジャワ上陸作戦では、第二小隊の「三隈」と「最上」がバンタム湾上陸作戦に参加し、輸送船団を護衛中に撃退してきた米豪巡洋艦部隊と交戦。オーストラリア軽巡「バース」と米重巡「ヒューストン」を第五水雷戦隊と共同して撃沈するという戦果をあげました。また4月にはビルマ沖のベンガル湾で通商破壊戦を展開し、マドラス方面に進出した第二小隊の「三隈」「最上」は英商船7隻を撃沈しています。

そしていよいよ戦勢の一大転換点となった昭和17年6月のミッドウェー海戦を迎えることとなります。ミッドウェー作戦で第七戦隊は、同島占領部隊が乗船する輸送船団の直接援護の任を受け、支援隊として参加しました。上陸作戦の際には占領部隊の敵前上陸を艦砲により援護する予定でしたが、6月4日に南雲機動部隊の空母4隻が相次いで撃沈されてしまったのです。第七戦隊は、その夜ミッドウェー島の陸上航空基地砲撃の指令を受け、同島の西90海里まで迫りましたが、連合艦隊から砲撃中止の命令を受け作戦を中止します。4隻が軍報陣で北西に向け反転航行中、先頭の旗艦「熊野」が米軍の潜水艦「タンパー」が浮上しているのを発見、これを回避するために「左45度緊急一斉回頭」を発令しました。

その直後、さらにもう一隻の潜水艦発見(これは誤認でした)の報に、再び「左45度緊急一斉回頭」を発令しますが、前者が信号灯、後者が無線であったため、後続艦に混乱が生じ、最後尾の「最上」が28ノットの高速で3番艦「三隈」の左舷に艦首を衝

突させてしまいます。「三隈」の損傷は軽微でしたが、「最上」は艦首が折れ曲がり、自力航行が困難となってしまったのです。

応急作業の結果、「最上」は12ノットでの自力航行が可能となりましたが、栗田少将は戦隊の現在地がミッドウェー島に近く、夜明けから米軍機の来襲は必至とみて、「三隈」と第八駆逐隊の「朝潮」「荒潮」に「最上」の救援を命じ、自らは「熊野」と「鈴谷」を率いて退避していききました。

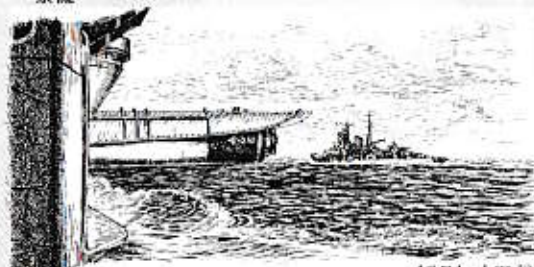
「三隈」は「最上」を護衛しつつ12ノットで離脱を図りましたが、追撃してきた第16任務部隊の空母「エンタープライズ」搭載機に発見されてしまいます。6日にミッドウェー島から来襲した海兵隊の雷撃機と急降下爆撃機による空襲はなんとかわいだものの、7日には米機動部隊の艦載機に捕捉されてしまいました。必死の対空戦闘を展開しましたが、戦爆連合114機の集中攻撃により「三隈」に6発、「最上」にも5発の爆弾が命中、両艦とも大破炎上。「三隈」は搭載魚雷が誘爆したため行動不能となり、総員退去後に沈没して日本海軍の重巡喪失第一号となってしまいました。

しかし旗艦の「最上」は、必死の消火作業により沈没には至らず、船体を果敢として最上型巡洋艦の強靱さを証明することとなるのです。

なお、この空襲で撮影された「三隈」の映像により、米軍は最上型の主砲が20.3cm砲に換装されたことを初めて知って驚愕したとされています。

■軽巡洋艦「三隈」主要要目(性能改善工事後)

- 基準排水量12,000トン
- 全長200.6m 最大幅20.51m
- 主機：艦本式高中低圧式タービン4基4軸
- 出力152,000馬力
- 最高速力35ノット
- 武装：15.5cm三連装砲×5基、12.7cm連装高角砲×4基、25mm連装機銃×4基、13mm連装機銃×2基、61cm三連装発射管×4基
- 航空兵装：呉式2号5型射出機2基
- 搭載機：九五式二座水上偵察機、九四式三座水上偵察機



イラスト：土田信

«Light Cruiser Mikuma»

Construction of the light cruiser Mikuma began on December 24, 1931 at Mitsubishi's Nagasaki shipyards, and she was launched in May 1934 and completed on August 29, 1935. She was the second ship of the Mogami-class of light cruisers ordered under the 1st Fleet Replenishment Program, which was based on the 1930 London Naval Treaty. At the time, Japan was allowed 100,450 tons of cruisers with armament up to 15.5cm guns, but due to the retirement of the Hirado-class and the need to replace older Tenryu-class and Kuma-class ships, Japan was granted a special exception to build an additional 50,955 tons of cruisers.

The requirements set forth by the Japanese Navy were demanding: 5 triple 15.5cm gun turrets, 4 triple 61cm torpedo launchers, 4 twin 12.7cm gun turrets, protection against 20.3cm shells, top speed of 37 knots, range of 8,000 nautical miles, all within the 8,500 ton treaty-limited displacement. In addition to the 60 caliber 15.5cm guns, which had 55° elevation to target aircraft, and the Type 89 twin 12.7cm gun turrets, 4 twin 25mm cannons and 2 twin 13mm machine guns were also fitted. The chief designer, Shipbuilding Captain Kikuo Fujimoto, also included the possibility of installing twin 20.3cm gun turrets into the design. All of the requirements were met, but final displacement jumped to 9,500 tons and the ships were top-heavy. After the "Tomozuru Incident" and the cracking of the Mogami's hull during trials, strengthening modifications were carried out which increased displacement to 11,200 tons. Typhoon damage suffered during the "4th Fleet Incident" further revealed the ships' inadequate hull strength, so Mikuma and Mogami received additional structural reinforcement from April 1936 to October 1937 and April 1936 to February 1938 respectively. This refit included a smaller rear mast, hull bulges, and reshaped catapult bases, and resulted in a final displacement of 12,000 tons.

Suzuya and Kumano, the 3rd and 4th ships in the class, were modified during construction and Kumano was completed at the same time that Mikuma's refit was finished on October 31, 1937. On December 1st, Mikuma, Suzuya, and Kumano joined the 2nd Fleet as Cruiser Division 7. When hostilities with China commenced, Cruiser Division 7 took on Nakajima E8N and Kawanishi E7K reconnaissance floatplanes, had camouflage applied, and were deployed off the coast of the mainland.

«London Naval Treaty Withdrawal and Conversion into Heavy Cruiser»

During the Second London Naval Treaty negotiations in June 1934, Japan's demands for numerical equality of warships up to light cruisers were rejected, leading to its withdrawal from the treaty. This, combined with the expiration of the Washington Naval Treaty at the end of 1936, meant Japan no longer had to abide by treaty limits. Japan's Navy was already prepared for this development and began construction of 2 Yamato-class battleships, 2 Shokaku-class aircraft carriers and modernization of other warships under the 3rd Fleet Replenishment Program. The Tone-class then under construction and the Mogami-class were fitted with 20.3cm gun turrets and converted into heavy cruisers.

Conversion of Mikuma, Mogami, Suzuya, and Kumano took place from June 1st to the end of 1939, January 31st to April 30th 1939, January 31st to December 20th 1939, and May 20th to the end of 1939 respectively. Aside from the

change in main armament, the Type 90 torpedoes were replaced with Type 93 torpedoes and a torpedo firing command post was installed on the foremast. In the latter half of 1941, in preparation for combat deployment, degaussing cables were fitted to the sides of the ships.

«Demise of the Mikuma at Midway»

At the start of the Pacific war, the 4 Mogami-class ships of the 2nd Fleet's Cruiser Division 7 were under the command of (Captain) Kurita in the Kumano and were sent to escort the Malay invasion force. In February 1942, the Mogami and Mikuma escorted transports for the invasion of Java at Bantam Bay, and together with Destroyer Division 5, they sank the Australian light cruiser HMAS Perth and the American heavy cruiser USS Houston in the Battle of Sunda Strait. In April, the unit participated in attacks on merchant shipping in the Bay of Bengal, with Mikuma and Mogami sinking 7 British merchantmen in the area around Madras.

The unit then headed into the turning point of the war, the Battle of Midway, in June 1942. Cruiser Division 7 were assigned as close escort for the transports and were to provide fire support for the landings, but the 4 aircraft carriers of Nagumo's Mobile Fleet were sunk on June 4th. That night, the unit was sent to bombard the airfield on Midway and approached to within 90 nautical miles before the operation was cancelled. As the 4 cruisers withdrew towards the northwest, the lead ship Kumano spotted the submarine USS Tambor and ordered a simultaneous 45° turn to port to evade it. Immediately following this, a mistaken sighting of a second submarine was reported, and another simultaneous 45° turn to port was ordered. However, because the first order was sent by signal lamps while the second order was sent by radio, the formation broke down and in the ensuing confusion, the last ship in the line, Mogami, rammed the left side of the 3rd ship, Mikuma, at 28 knots. While damage to Mikuma was slight, the Mogami's bow was bent and she had difficulty moving on her own power. Emergency repairs eventually enabled Mogami to proceed at 12 knots, but with the ships still near Midway and the sunrise, and US air attacks, imminent, Kurita decided to leave Mikuma and the Asashio and Arashio from Destroyer Division 8 to escort the Mogami while he withdrew first with Kumano and Suzuya.

Those 4 ships continued to withdraw at 12 knots, but were discovered by aircraft from Task Force 16's aircraft carrier USS Enterprise. On June 6th, they withstood attacks by US Marine torpedo and dive bombers from Midway, but were caught by US carrier aircraft on the following day. Despite desperate anti-aircraft fire, the concentrated attack by 114 aircraft hit Mikuma 6 times and Mogami 5 times, and both ships were set ablaze, Mikuma's torpedoes exploded, leaving her unable to move, so after evacuation of the surviving crew, she became the first Japanese heavy cruiser to be sunk in WWII.

«Light Cruiser Mikuma Specifications»

Standard Displacement: 12,000 tons
Overall Length: 200.6m Overall Beam: 20.51m
Propulsion: 4 Mid/Low-Pressure Turbines Driving 4 Screws
Power: 152,000hp
Maximum Speed: 35 knots
Armament: Triple 15.5cm turret x5, twin 12.7cm turret x4, twin 25mm cannons x4, twin 13mm machine guns x2, triple 61cm torpedo launcher x4

Aircraft Equipment: Kure Type No. 2 Mod. 5 catapult x2

Aircraft Complement: Nakajima E8N and Kawanishi E7K floatplanes

«Leichter Kreuzer Mikuma»

Der Bau des Leichten Kreuzers Mikuma begann am 24. Dezember 1931 auf der Mitsubishi Werft in Nagasaki, er lief im Mai 1934 vom Stapel und wurde am 29. August 1935 fertig gestellt. Er war das zweite Schiff der Mogami-Klasse leichter Kreuzer, geordert entsprechend dem 1. Flotten-Ergänzungsprogramm, welches auf dem Londoner Marineabkommen von 1930 basierte. Damals wurden Japan 100.450 Tonnen an Kreuzern mit einer Bewaffnung von bis zu 15,5cm Kanonen zugestanden, aber wegen des Rückzugs der Hirado-Klasse und der Erfordernis, die älteren Schiffe der Tenryu-Klasse und Kuma-Klasse zu ersetzen, gewährte man Japan eine Ausnahmegenehmigung, weitere 50.955 Tonnen an Kreuzern zu bauen.

Die von der Japanischen Marine festgesetzten Anforderungen verlangten: 5 Dreifach 15,5cm Kanonentürme, 4 Dreifach-61cm-Torpedo-Abschussrohre, 4 Zwillings-12,7cm Kanonentürme, Schutz gegen 20,3cm Granaten, Höchstgeschwindigkeit 37 Knoten, Reichweite 8.000 Seemeilen und all dies innerhalb der vom Abkommen auf 8.500 Tonnen begrenzten Verdrängung. Zusätzlich zu den Kaliber 60 15,5cm Kanonen, die 55° Elevation hatten, um auf Flugzeuge zu zielen und den Typ 89 12,7cm Zwillings-Kanonentürmen waren auch 4 Zwillings-25mm Kanonen und 2 Zwillings-13mm Maschinenkanonen eingebaut. Der Chefkonstrukteur, Schiffsbau-Kapitän Kikuo Fujimoto, sah auch die Möglichkeit vor, in die Konstruktion Zwillings-20,3cm Kanonentürme einzubauen. Alle Anforderungen wurden erfüllt, aber die endgültige Verdrängung überschritt 9.500 Tonnen und die Schiffe waren kopflastig. Nach dem „Tomozuru-Unfall“ und dem Bruch in Mogami's Rumpf bei Versuchsfahrten, wurden Umbauten zur Verstärkung vorgenommen, welche die Verdrängung auf 11.200 Tonnen erhöhten. Beim „Unfall der 4. Flotte“ erlittene Taifun-Beschädigungen offenbarten wiederum die unzureichende Rumpf-Festigkeit des Schiffs, daher erhielten Mikuma und Mogami zwischen April 1936 und Oktober 1937 beziehungsweise April 1936 bis Februar 1938 zusätzliche Strukturverstärkungen. Diese Neugestaltung umfasste einen kleineren Heckmast, Rumpf-Ausbuchtungen und neu geformte Katapult-Basen, sie führte zu einer endgültigen Verdrängung von 12.000 Tonnen.

Suzuya und Kumano, die 3. und 4. Schiffe dieser Klasse, wurden während des Baus modifiziert und Kumano zum gleichen Datum am 31. Oktober 1937 fertig, an dem auch die Neugestaltung Mikuma's beendet war. Am 1. Dezember schlossen sich Mikuma, Suzuya und Kumano der 2. Flotte als Kreuzer-Division 7 an. Als die Feindlichkeiten mit China begannen, übernahm die Kreuzer-Division 7 Nakajima E8N und Kawanishi E7K Aufklärungs-Wasserflugzeuge, hatte Tarnanstrich aufgetragen und war fernab der Küste des Heimatlandes eingesetzt.

«Ausscheiden aus dem Londoner Marineabkommen und Umwandlung in Schwere Kreuzer»

Während der Unterhandlungen zum Zweiten Londoner Marineabkommen im Juni 1934 wurden Japans Ansprüche auf numerische Gleichheit an Kriegsschiffen bis hinauf zu

Leichten Kreuzern verworfen, was zum Rückzug aus dem Abkommen führte. Im Zusammenhang mit dem Auslaufen des Washingtoner Marineabkommens zum Ende 1936 bedeutete dies, dass Japan nicht mehr länger an Abkommens-Begrenzungen gebunden war. Japans Marine war auf diese Entwicklung vorbereitet und begann den Bau von 2 Schlachtschiffen der Yamato-Klasse, 2 Flugzeugträgern der Shokaku-Klasse sowie der Modernisierung anderer Kriegsschiffe im Rahmen des 3. Flotten-Ergänzungsprogramms. Die damals in Bau befindliche Tone-Klasse und die Mogami-Klasse wurden mit 20,3cm Kanonentürmen ausgerüstet und in Schwere Kreuzer umgewandelt.

Die Umwandlung von Mikuma, Mogami, Suzuya und Kumano fand zwischen 1. Juni und Ende 1939, 31. Januar bis 30. April 1939, 31. Januar bis 20. Dezember 1939 und 20. Mai bis Ende 1939 statt. Neben dem Auswechseln der Hauptbewaffnung wurden die Torpedos Typ 90 durch Typ 93 ersetzt und es wurde auf dem Fockmast eine Torpedofeuerleitstand eingerichtet. In der zweiten Hälfte von 1941 wurden in Vorbereitung für Kampfeinsätze an den Schiffs-Seiten Entmagnetisierungs-Kabel angebracht.

«Untergang der Mikuma bei Midway»

Zu Beginn des Pazifikkriegs standen die 4 Schiffe der Mogami-Klasse von der Kreuzer-Division 7 der 2. Flotte unter dem Kommando von (Kapitän) Kurita auf der Kumano, sie waren als Eskorte der Malaysia Invasions-Truppen entsendet. Im Februar 1942 eskortierten Mogami und Mikuma Transporte für die Invasion von Java an der Bantam Bay und zusammen mit der Zerstörer-Division 5 versenkten Sie den Australischen Leichten Kreuzer HMAS Perth und den Amerikanischen Schwere Kreuzer USS Houston bei der Schlacht in der Sunda-Straße. Im April nahm die Einheit in der Bucht von Bengalen an Angriffen auf Handelsschiffe teil, wobei Mikuma und Mogami im Gebiet um Madras 7 Britische Handelsschiffe versenkten. Die Einheit nahm dann Kurs auf den Wendepunkt des Kriegs, die Schlacht bei Midway im Juni 1942. Die Kreuzerdivision 7 war als Nah-Eskorte für Transporter eingeteilt und sollte für Landoperationen Feuerschutz geben, aber die 4 Flugzeugträger von Nagumos Einsatzflotte wurden am 4. Juni versenkt. In dieser Nacht war die Einheit losgeschickt, um den Flugplatz von Midway zu bombardieren, sie näherte sich bis auf 90 Seemeilen, ehe die Aktion abgeblasen wurde. Als die 4 Kreuzer sich nach Nordwesten zurückzogen, sichtete das Führungsschiff Kumano das Unterseeboot USS Tambor und befahl eine gleichzeitigen 45° Schwenk nach Steuerport, um ihm zu entkommen. Unmittelbar darauf folgend wurde irrtümliche die Sichtung eines zweiten U-Boots gemeldet. Da jedoch der erste Befehl durch Scheinwerfer-Lichtsignal versendet wurde und der zweite über Funk, brach die Formation auseinander und in der entstehenden Verwirrung ramnte das letzte Schiff in der Linie, die Mogami, die linke Seite des 3. Schiffs Mikuma mit 28 Knoten. Während der Schaden auf der Mikuma gering blieb, war der Bug der Mogami verbogen und sie hatte Schwierigkeiten, sich aus eigener Kraft fortzubewegen. Notreparaturen ermöglichten schließlich Mogami die Weiterfahrt mit 12 Knoten, aber wegen der Nähe der Schiffe zu Midway, dem Sonnenaufgang und drohenden US-Luftangriffen entschied Kurita, Mikuma, dazu Asashio und Arashio von der Zerstörer-Division 8 zu belassen, um die Mogami zu eskortieren, während er sich erst einmal mit Kumano und Suzuya zurückzog.

Jene 4 Schiffe setzten ihren Rückzug mit 12 Knoten fort, wurden aber durch Flugzeuge des Flugzeugträgers USS Enterprise der Kampfgruppe 16 entdeckt. Am 6. Juni überstanden sie Angriffe durch Torpedo- und Sturzbomber der US Marine von Midway aus, sie wurden aber am folgenden Tag von US Trägerflugzeugen erwischt. Trotz verzweifelten Luftabwehr-Feuers wurde durch den konzentrierten Angriff von 114 Flugzeugen die Mikuma 6-mal und die Mogami 5-mal getroffen sowie beide Schiffe in Brand gesetzt. Die Torpedos der Mikuma explodierten, was sie manövrierunfähig machte, nach Evakuierung der überlebenden Mannschaft war sie der erste Japanische Schwere Kreuzer, welcher im Zweiten Weltkrieg versenkt wurde.

«Leichter Kreuzer Mikuma Technische Daten»
Standard Verdrängung: 12.000 Tonnen
Gesamtlänge: 200,6m Gesamtbreite: 20,51m
Antrieb: 4 Mittel-Niederdruck Turbinen auf 4 Schrauben wirkend
Leistung: 152.000PS
Höchstgeschwindigkeit: 35 Knoten
Bewaffnung: Dreifach 15,5cm Turm x5, Zwillings 12,7cm Turm x4, Zwillings 25mm Kanonen x4, Zwillings 13mm Maschinenkanonen x2, dreifach 61cm Torpedo-Abschussrohre x4
Flugzeug-Ausstattung: Kure Typ No. 2 Mod. 5 Katapult x2
Zusatz-Flugzeuge: Nakajima E8N and Kawanishi E7K Wasserflugzeuge

«Croiseur Léger Mikuma»

La construction du croiseur léger Mikuma débuta le 24 décembre 1931 au chantier naval Mitsubishi de Nagasaki. Il fut mis à l'eau en mai 1934 et terminé le 29 août 1935. Il était le deuxième bâtiment de la classe de croiseurs Mogami commandée dans le cadre du Programme de Renforcement de la 1ère Flotte, basé sur le Traité Naval de Londres. Le Japon avait obtenu la permission de construire de nouveaux croiseurs d'un tonnage total de 100.450 tonnes armés de canons de 155mm maximum, mais du fait du retrait de la classe Hirado et de la nécessité de remplacer les anciennes classes Tenryu et Kuma, le Japon fut exceptionnellement autorisé à construire 50.955 tonnes de croiseurs supplémentaires.

L'armement prévu à l'origine comprenait cinq tourelles triples de 155mm, quatre lance-torpilles triples de 61cm, quatre affûts doubles de 127mm. Le blindage devait résister aux obus de 200mm, la vitesse maximale prévue était de 37 nœuds, l'autonomie de 8.000 miles nautiques, dans les limites de 8.500 tonnes de déplacement fixé par le traité. En plus des canons de 155mm calibre 60, capables d'être levés à 55° pour viser des avions et des tourelles doubles de 127mm Type 89, quatre canons de 25mm et deux mitrailleuses doubles de 13mm étaient installés. L'ingénieur en chef, le Capitaine Kikuo Fujimoto ménagea la possibilité d'installer des tourelles doubles de 203mm. Toutes les performances demandées furent atteintes mais le déplacement final passa à 9.500 tonnes et les navires étaient mal équilibrés et instables.

Après l'incident de Tomotsuru et les dommages à la coque du Mogami durant les essais, des modifications de renforcement furent entreprises qui firent passer le déplacement à 11.200 tonnes. Les dommages occasionnés

par un typhon lors de «l'Incident de la 4^{ème} Flotte» démontrèrent une fois encore la faiblesse de la coque et le Mikuma et le Mogami reçurent encore une fois des renforcements structurels entre avril 1936 et octobre 1937 et entre avril 1936 et février 1938 respectivement. A cette occasion apparurent un mât arrière court, des renforcements sur la coque et des bases de catapultes remaniées. Le déplacement final était de 12.000 tonnes.

Le Suzuya et le Kumano, 3^{ème} et 4^{ème} bâtiments de la classe furent modifiés en cours de construction. Le Kumano fut terminé au moment où la refonte du Mikuma s'achevait, le 31 octobre 1937. Le 1^{er} décembre, le Mikuma, le Suzuya et le Kumano rejoignirent la 2^{ème} Flotte au sein de laquelle ils constituaient la 7^{ème} Division de Croiseurs. Lorsque les hostilités avec la Chine débutèrent, la 7^{ème} Division de Croiseurs embarqua des hydravions de reconnaissance Nakajima E8N et Kawanishi E7K, fut camouflée et déployée au large de la Chine continentale.

«Retrait du Traité Naval de Londres et Conversion en Croiseur Lourd»

Lors des négociations du second Traité Naval de Londres en juin 1934, le Japon demanda l'égalité avec les autres pays et réclama la parité numérique pour les croiseurs légers et unités plus petites. Ces propositions furent rejetées par les grandes puissances et le Japon se retira du traité. Avec l'expiration du Traité de Washington fin 1936, cela signifiait que le Japon n'était plus soumis à aucune limitation. Déjà préparée à cela, la Marine Japonaise avait lancé la construction de deux cuirassés de la classe Yamato, deux porte-avions de la classe Shokaku et la modernisation d'autres unités. Les Classes Mogami et Tone en construction furent équipés de tourelles de 203mm et convertis en croiseurs lourds. Les conversions durèrent du 1er juin à fin 1939 (Mikuma), du 31 janvier au 30 avril 1939 (Mogami), du 31 janvier au 20 décembre 1939 (Suzuya) et du 20 mai à fin 1939 (Kumano). A part le changement d'armement principal, les torpilles type 90 furent remplacées par des Type 93 et un poste de commandement de tir des torpilles installé dans le mât avant. Dans la deuxième moitié de 1941, en préparation au déploiement au combat, des câbles de dégaussage furent installés sur les flancs des navires.

«La Fin du Mikuma à Midway»

Au début de la Guerre du Pacifique, les quatre unités de la Classe Mogami de la 7^{ème} Division de Croiseurs de la 2^{ème} Flotte étaient sous le commandement du contre-amiral Kurita sur le navire-amiral Kumano. Ils prirent part à l'escorte et au soutien des forces d'invasion de la Malaisie. En février 1942, le Mogami et le Mikuma escortèrent les transports pour l'invasion de Java et de Bantam Bay et avec la 5^{ème} Division de Croiseurs, ils coulerent le croiseur léger australien HMAS Perth et le croiseur lourd américain USS Houston lors de la Bataille du Détroit de la Sonde. En mars, l'unité participa à des raids dans la Baie du Bengale, le Kumano et le Suzuya coulant 5 navires marchands au large de Calcutta, le Mogami et le Mikuma 7 au large de Madras.

L'unité prit ensuite part au point tournant de la guerre, la Bataille de Midway, en juin 1942. La 7^{ème} Division de Croiseurs était assignée à l'escorte rapprochée des navires de transport et au soutien des forces de débarquement, mais les quatre porte-avions de la Flotte Mobile de Nagumo furent coulés le 4 juin. Cette nuit, l'unité fut envoyée pilonner l'aérodrome de Midway et s'en approcha

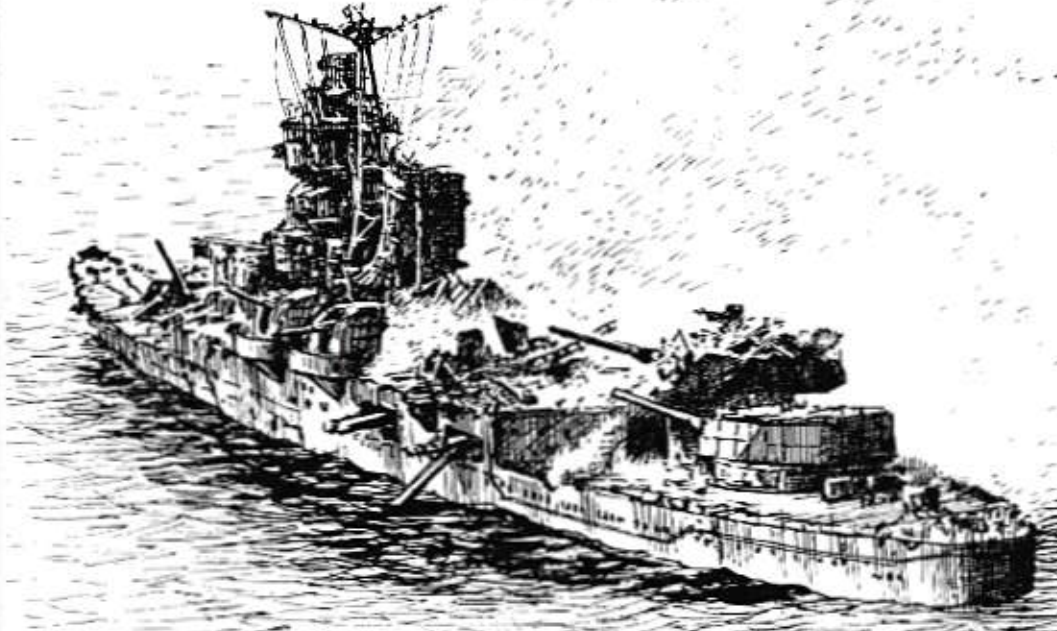
à 170km avant que l'opération ne soit annulée. Alors que les quatre croiseurs se repliaient vers le nord-ouest, celui de tête, le Kumano, repéra le sous-marin USS Tambor et ordonna un virage de cap commun à 45° sur bâbord pour l'éviter. Juste après, un autre sous-marin américain fut repéré par creux et un autre virage à 45° sur bâbord ordonné. Le premier ordre ayant été donné par signaux lumineux et le second par radio, la formation se disloqua et dans la confusion qui s'en suivit, le dernier navire de la ligne, le Mogami, éperonna le flanc gauche du troisième, le Mikuma, à 28 nœuds. Les dommages du Mikuma étaient légers mais la proue du Mogami était pliée et il se déplaçait difficilement. Des réparations d'urgence permirent au Mogami de faire route à 12 nœuds mais étant toujours à proximité de Midway au lever du jour, les attaques aériennes américaines étaient imminentes. Kurita décida de laisser le Mikuma ainsi que le Ashio et l'Arashio de la 8^{ème} Division de Destroyers pour escorter le Mogami, alors qu'il se repliait en premier avec le Kumano et le Suzuya.

Alors que les quatre bâtiments continuaient leur repli à 12 nœuds, ils furent repérés par des avions de la Task Force de l'USS Enterprise. Le 6 juin, ils résistèrent à une attaque de bombardiers en piqué et avions torpilleurs de la Marine Corps basés à Midway, mais furent rattrapés par des appareils embarqués US le jour suivant. Malgré une

défense anti-aérienne désespérée, l'attaque concentrée de 114 avions toucha 6 fois le Mikuma et 5 fois le Mogami, les laissant tous deux en feu. Les torpilles du Mikuma explosèrent, rendant tout déplacement impossible. Après évacuation de l'équipage, il devint le premier croiseur lourd japonais coulé durant la 2^{ème} G.M.

«Caractéristiques du Croiseur Léger Mikuma»

Déplacement standard: 12.000 tonnes
Longueur hors-tout: 200,6m Largeur maximale: 20,51m
Propulsion: 4 turbines moyenne/basse pression entraînant 4 hélices.
Puissance: 152.000cv
Vitesse maxi: 35 nœuds
Armement: 5x tourelles triples 155mm, 4x tourelles doubles 127mm, 4x canons doubles 25mm, 2x mitrailleuses doubles 13mm, 4x lance-torpilles triples 61cm.
Equipement aviation: 2x catapultes Kure Type No. 2 Mod. 5,
Parc Aérien : Hydravions Nakajima E8N et Kawanishi E7K



●昭和17年6月ミッドウェー諸島沖でエンタープライズの艦載機114機による集中攻撃を受け、大破した三隈。後部機関から後は跡形もなく吹き飛び、船体も左舷側に若干傾いているが沈まなかった。この後三隈は総員待避の後に沈没しました。
 ●In June 1942, the Mikuma came under concentrated attack by 114 aircraft from the aircraft carrier USS Enterprise near Midway. The rear section from the aft funnel onwards was completely destroyed, but she kept afloat leaning slightly to port. After the evacuation of the surviving crew, the Mikuma sank beneath the waves.

注意 ●このキットは組み立てモデルです。作る前に必ず説明書を最後までお読みください。また小学生などの低年齢の方が組み立てるときは、保護者の方もお読みください。また接着剤や塗料は、必ずプラスチック用をお使いください。(別売) ●工具の使用には十分注意してください。特にナイフ、ニッパーなどの刃物によるケガや事故に注意してください。●接着剤や塗料は使用する前にそれぞれの注意書きをよく読み、指示に従って正しく使用し、使用するときは換気に十分注意してください。●小さなお子様のいる所での作業はやめてください。小さな部品の飲み込みや、ビニール袋をかぶつての窒息などの危険な状況が考えられます。●エッチングパーツはたいへん薄く、手などを切りやすいので取り扱いには十分注意してください。

CAUTION ●Read carefully and fully understand the instructions before commencing assembly. A supervising adult should also read the instructions if a child assembles the model. ●When assembling this kit, tools including knives are used. Extra care should be taken to avoid personal injury. ●Read and follow the instructions supplied with paint and/or cement, if used (not included in kit). Use plastic cement and paints only. ●Keep out of reach of small children. Children must not be allowed to put any parts in their mouths or pull vinyl bags over their heads. ●Extra care should be taken to avoid personal injury when handling the photo etched parts.

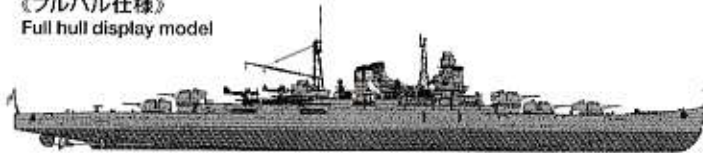
VORSICHT ●Bevor Sie mit dem Zusammenbau beginnen, sollten Sie alle Anweisungen gelesen und verstanden haben. Falls ein Kind das Modell zusammenbaut, sollte ein beaufsichtigender Erwachsener die Bauanleitung ebenfalls gelesen haben. ●Beim Zusammenbau dieses Bausatzes werden Werkzeuge einschließlich Messer verwendet. Zur Vermeidung von Verletzungen ist besondere Vorsicht angebracht. ●Wenn Sie Farben und/oder Kleber verwenden (nicht im Bausatz enthalten), beachten und befolgen Sie die dort beiliegenden Anweisungen. Nur Klebstoff und Farben für Plastik verwenden. ●Bausatz von kleinen Kindern fernhalten. Kindern darf keine Möglichkeit gegeben werden, irgendwelche Teile in den Mund zu nehmen oder sich Plastiktüten über den Kopf zu ziehen. ●Beim Umgang mit den fotoätzten Teilen sollte man besondere Vorsicht walten lassen, um Verletzungen zu vermeiden.

PRECAUTIONS ●Bien lire et assimiler les instructions avant de commencer l'assemblage. La construction du modèle par un enfant doit s'effectuer sous la surveillance d'un adulte. ●L'assemblage de ce kit requiert de l'outillage, en particulier des couteaux de modélisme. Manier les outils avec précaution pour éviter toute blessure. ●Lire et suivre les instructions d'utilisation des peintures et ou de la colle, si utilisées (non incluses dans le kit). Utiliser uniquement une colle et des peintures spéciales pour le polystyrène. ●Garder hors de portée des enfants en bas âge. Ne pas laisser les enfants mettre en bouche ou sucer les pièces, ou passer un sachet vinyl sur la tête. ●Manipuler les pièces en métal photo-découpé avec précaution pour éviter les blessures.

SELECTION

- このキットはフルハル仕様とウォーターライン仕様を選べます。
- Select either full hull display or waterline display model.
- Wählen Sie zwischen dem Komplettschiff oder dem Wasserlinienmodell.
- Choisir entre coque complète ou modèle Waterline.

《フルハル仕様》
Full hull display model



《ウォーターライン仕様》
Waterline display model



ASSEMBLY

- 組立説明図の中で塗装指示のない部品は船体色 (TS-66, XF-75)で塗装します。
- When no color is specified, paint parts with hull color (TS-66, XF-75).
- Wenn keine Farbe angegeben ist, Teile mit Rumpf-Farbe bemalen (TS-66, XF-75).
- Lorsqu'aucune teinte n'est spécifiée, peindre les pièces dans la couleur de la coque (TS-66, XF-75).

1 船底の組み立て
Hull construction
Anbau der Rumpf
Assemblage de la coque



このマークの部品は
接着しません。
Do not cement.
Nicht kleben.
Ne pas coller.

指示の穴を開けます。
Make holes.
Loch machen.
Percer des trous.

《フルハル仕様》
Full hull display model
Komplettschiff
Modèle à coque complète

- ★展示台を使用する場合は船底に穴を開けます。
- ★Make holes for attaching display base.
- ★Löcher zum Anbringen der Aufstell-Platte bohren.
- ★Percer des trous pour fixer le socle de présentation.

船底
Hull bottom
Rumpf-Unterteil
Base de coque

B18

B9

B11

X4

B12

X4

B14

B13

B19

B6

ポリキャップ (大)
Poly cap (large)
Kunststoff-Nabe (groß)
Pièce de jonction (grande)

TS-33

B13

B19

2.6mmナット
Nut
Mutter
Ecrou

2.6mmナット
Nut
Mutter
Ecrou

2.6mmナット
Nut
Mutter
Ecrou

B18

★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

喫水板
Waterline plate
Platte für das Wasserlinienmodell
Plaque Waterline

- ★ウォーターライン仕様の際は下図の部分を取り取り、パーツは垂直に取り付けます。
- ★When making waterline version, cut off parts as shown below.
- ★Wird das Wasserlinienmodell gebaut, die unten gezeigten Teile wegschneiden.
- ★Pour réaliser la version Waterline, découper les pièces comme indiqué ci-dessous.

B18

★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

その他のパーツ
Parts other than B18
Andere Teile neben B18
Pièces autres que B18

90°

2

左舷と右舷の組み立て

Attaching port and starboard side brackets

Anbringen der seitlichen Backbord- und Steuerbord-Klammern
Fixation des renforts de coque bâbord et tribord.

- ★向きに注意します。
- ★Note direction.
- ★Auf richtige Platzierung achten.
- ★Noter la sens.

ブラケット
Bracket
Klammer
Support

1.2×2.5mmビス
Screw
Schraube
Vis

ブラケット
Bracket
Klammer
Support

1.2×2.5mmビス
Screw
Schraube
Vis

ブラケット
Bracket
Klammer
Support

- ★ブラケットは少し動く程度にしめてください。
- ★Allow a little movement when attaching brackets.
- ★Beim Anbringen der Klammern etwas Beweglichkeit zulassen.
- ★Laisser un peu de mobilité en fixant les renforts.

- ★図の薄肉の部分に四角く穴を開けます。
- ★Make square-shaped holes at the thin-molded areas as shown.
- ★Machen Sie wie abgebildet viereckige Löcher an den Stellen, die dünn ausgeformt sind.
- ★Percer des trous carrés sur les zones moins épaisses.

(右舷)
Starboard side
Steuerbordseite
Tribord

A1

A2

(左舷)
Port side
Backbordseite
Bâbord

3

船体の組み立て

Hull assembly

Rumpf-Zusammenbau
Assemblage de la coque

1.2×4mmビス
Screw
Schraube
Vis

右舷
Starboard side
Steuerbordseite
Tribord

左舷
Port side
Backbordseite
Bâbord

船底
Hull bottom
Rumpf-Unterteil
Base de coque

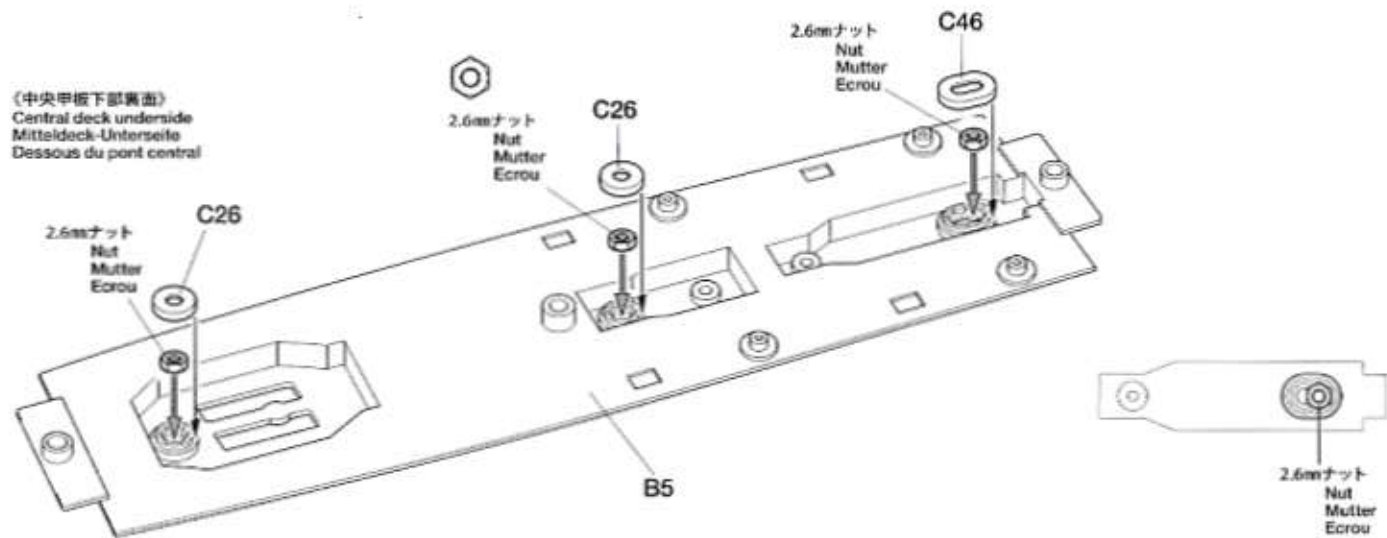
- ★船体は船底と位置を合わせて接着します。
- ★Match both sides with the hull bottom when attaching.
- ★Beide Seiten beim Anbringen mit dem Rumpfboden zusammenpassen.
- ★Ajuster les flancs avec le fond de la coque.

- ★左舷側も同様にビス止めしてください。
- ★Attach port side in the same way as starboard side.
- ★Die Backbordseite auf gleiche Weise auf Steuerbordseite anbringen.
- ★Fixer à bâbord comme à tribord.

- ★切り取ります。
- ★Remove.
- ★Entfernen.
- ★Enlever.

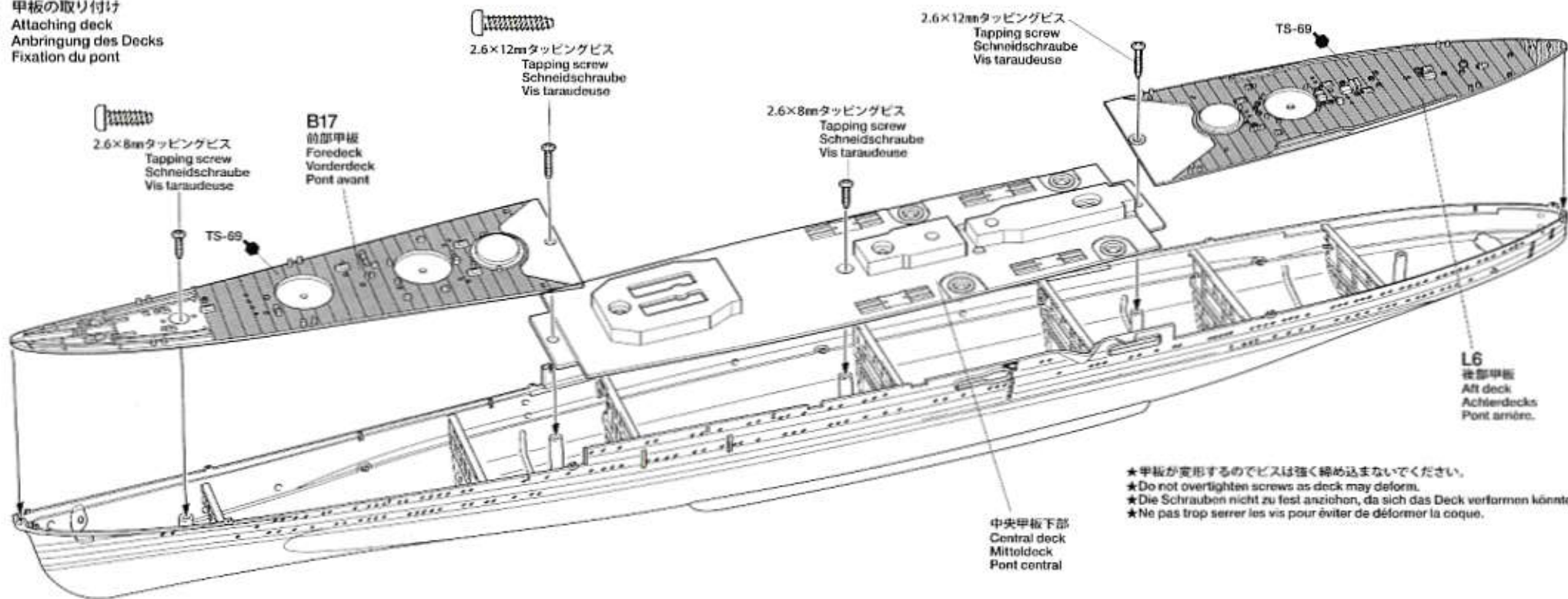
4

甲板裏面の組み立て
Deck underside
Unterseite des Decks
Dessous du pont



5

甲板の取り付け
Attaching deck
Anbringung des Decks
Fixation du pont



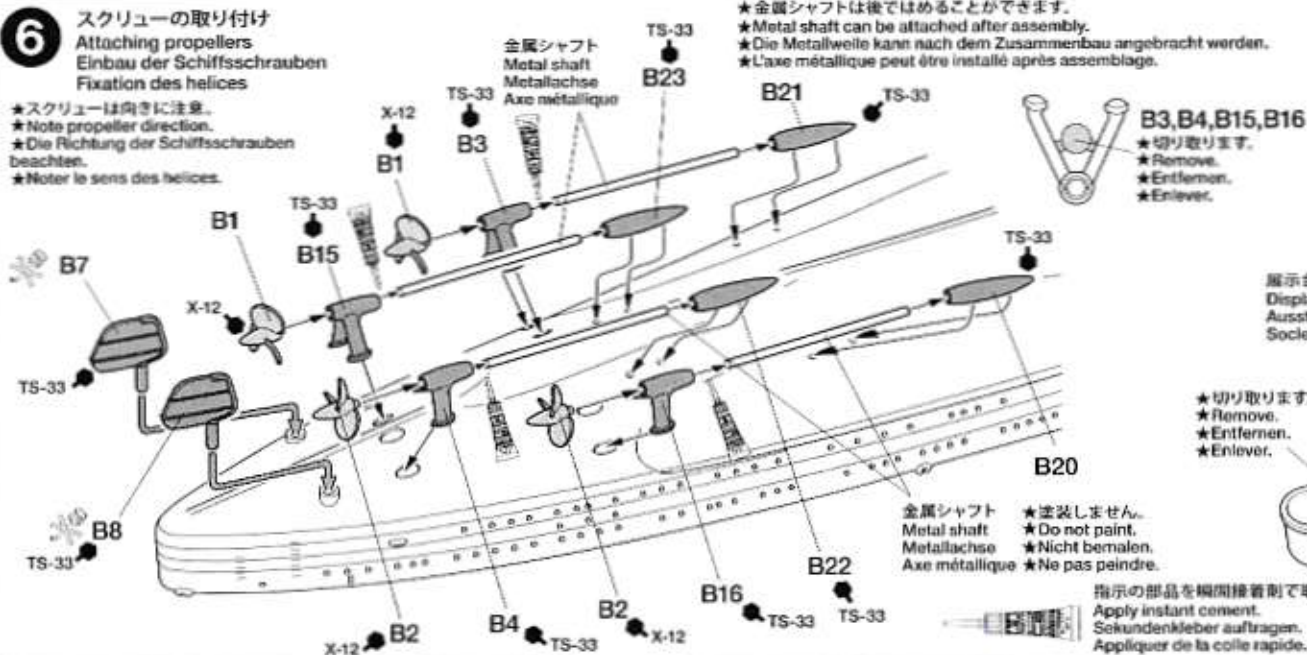
★甲板が変形するのでビスは強く締め込まないでください。
★Do not overtighten screws as deck may deform.
★Die Schrauben nicht zu fest anziehen, da sich das Deck verformen könnte.
★Ne pas trop serrer les vis pour éviter de déformer la coque.

6

スクリューの取り付け

Attaching propellers
Einbau der Schiffsschrauben
Fixation des hélices

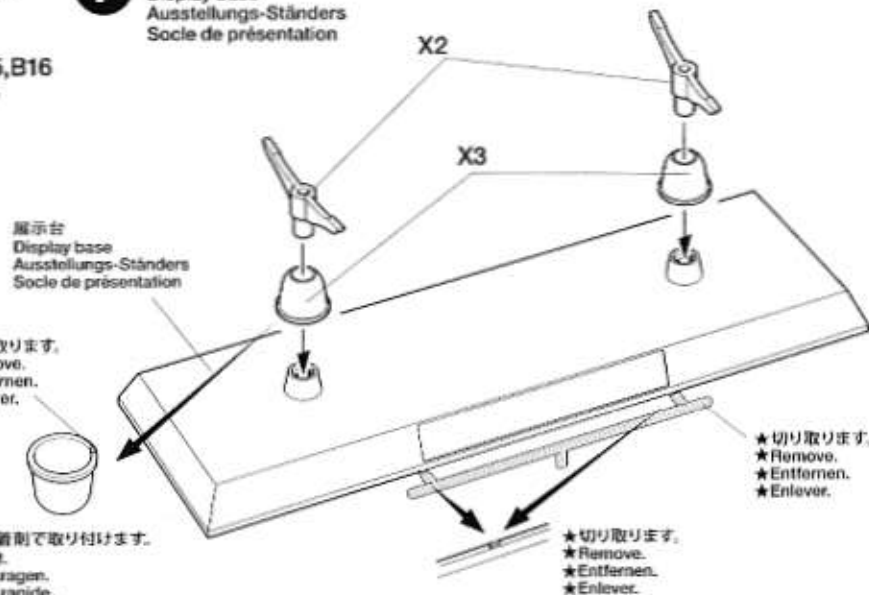
- ★スクリューは向きに注意。
- ★Note propeller direction.
- ★Die Richtung der Schiffsschrauben beachten.
- ★Noter le sens des hélices.



7

《展示台》

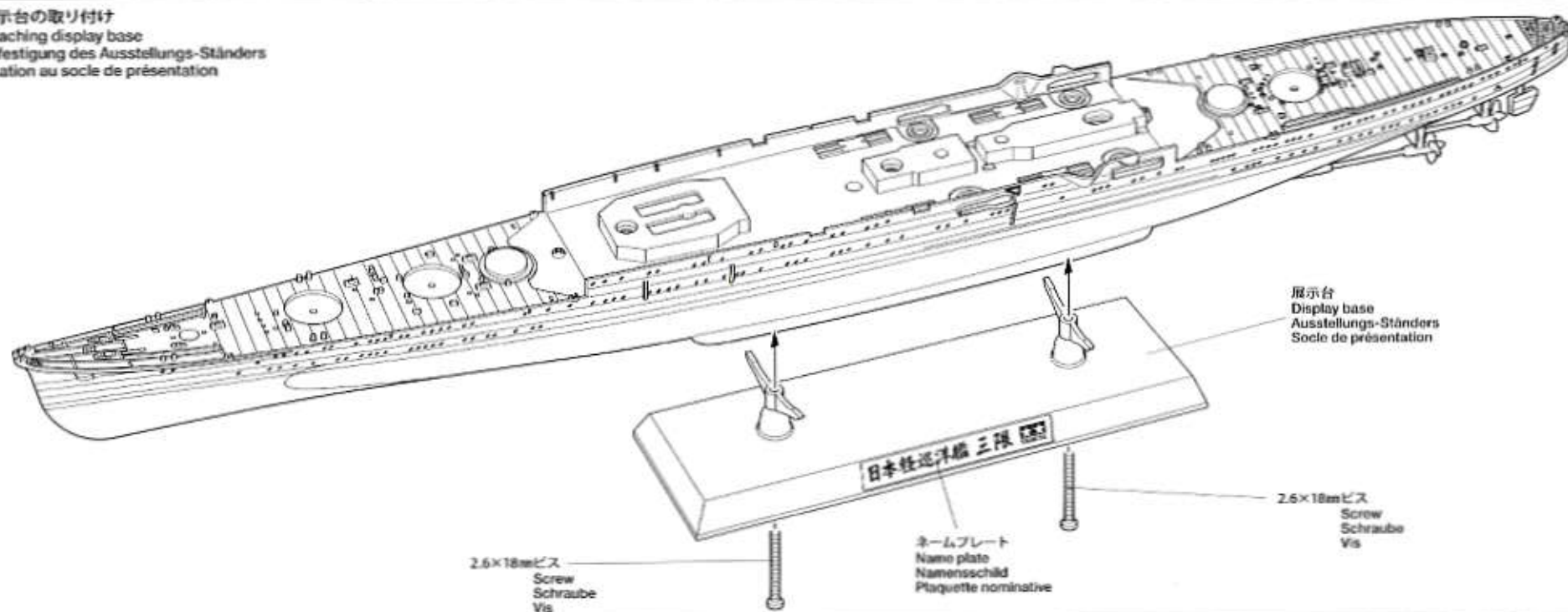
Display base
Ausstellungs-Ständers
Socle de présentation



8

展示台の取り付け

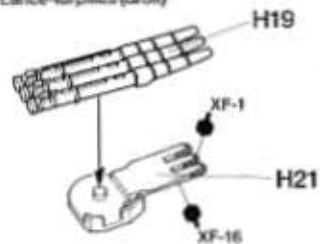
Attaching display base
Befestigung des Ausstellungs-Ständers
Fixation au socle de présentation



9

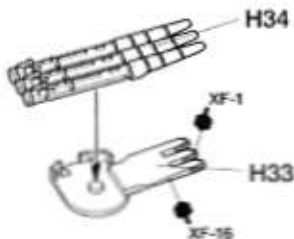
魚雷発射管の取り付け
 Attaching torpedo launcher
 Befestigen des Torpedo-Abschussrohres
 Installation des lance-torpilles et assemblage

〈魚雷発射管右〉
 Torpedo launcher (right)
 Torpedo-Abschussrohr (rechts)
 Lance-torpilles (droit)



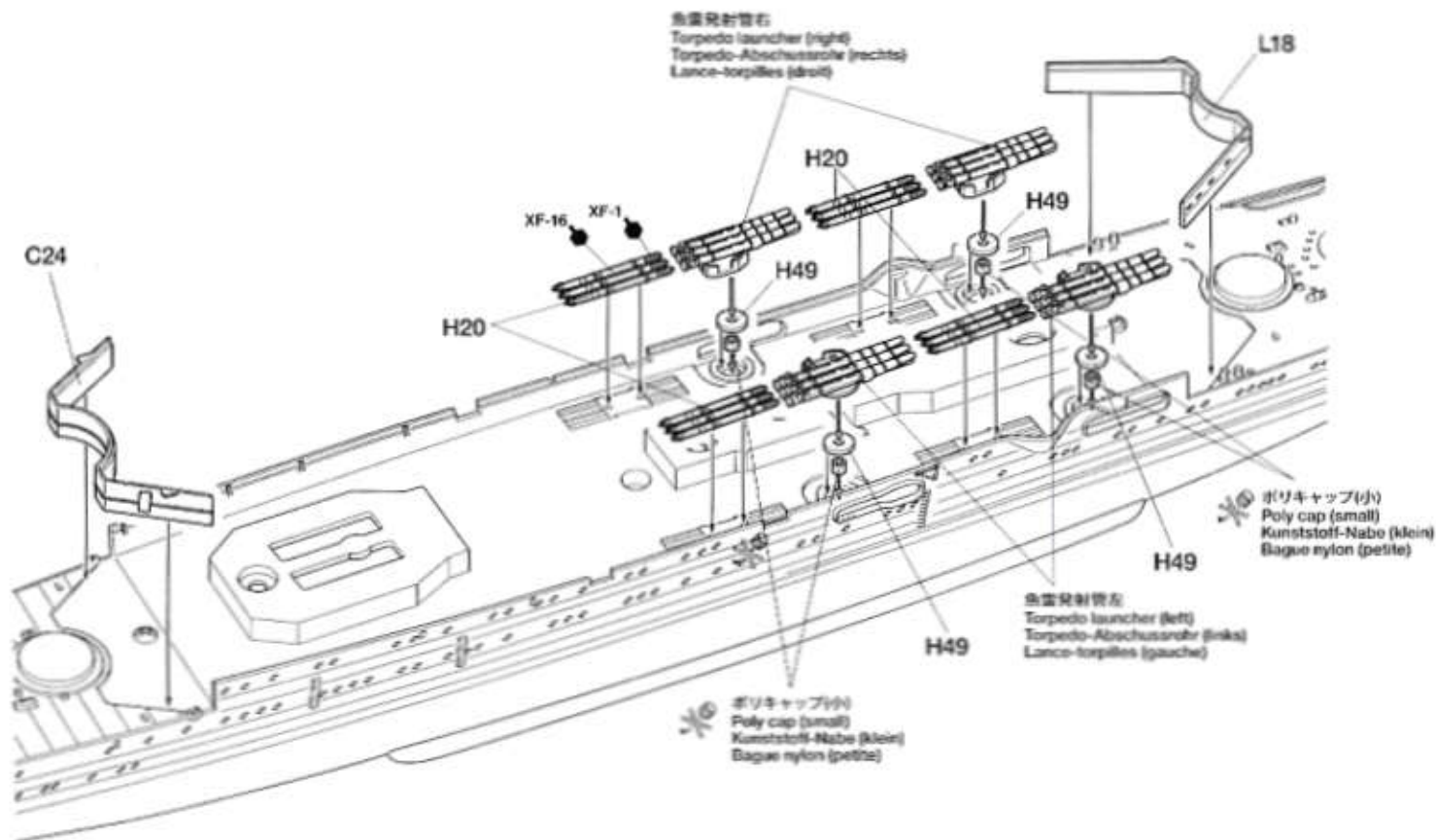
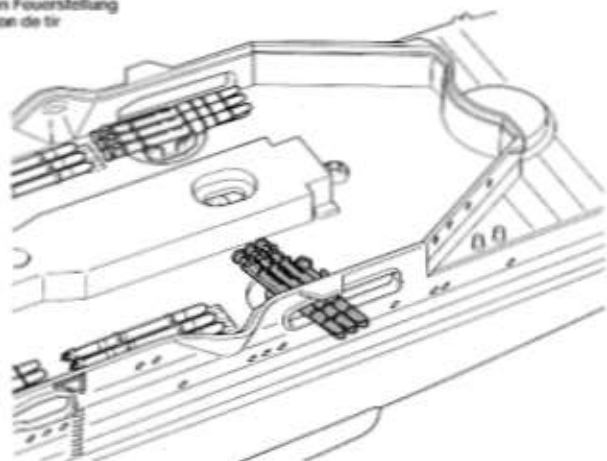
★2個作ります。
 ★Make 2.
 ★2 Satz anfertigen.
 ★Faire 2 jeux.

〈魚雷発射管左〉
 Torpedo launcher (left)
 Torpedo-Abschussrohr (links)
 Lance-torpilles (gauche)



★2個作ります。
 ★Make 2.
 ★2 Satz anfertigen.
 ★Faire 2 jeux.

〈魚雷発射管の発射状態〉
 Torpedo launcher in firing position
 Torpedo-Abschussrohr in Feuerstellung
 Lance-torpilles en position de tir



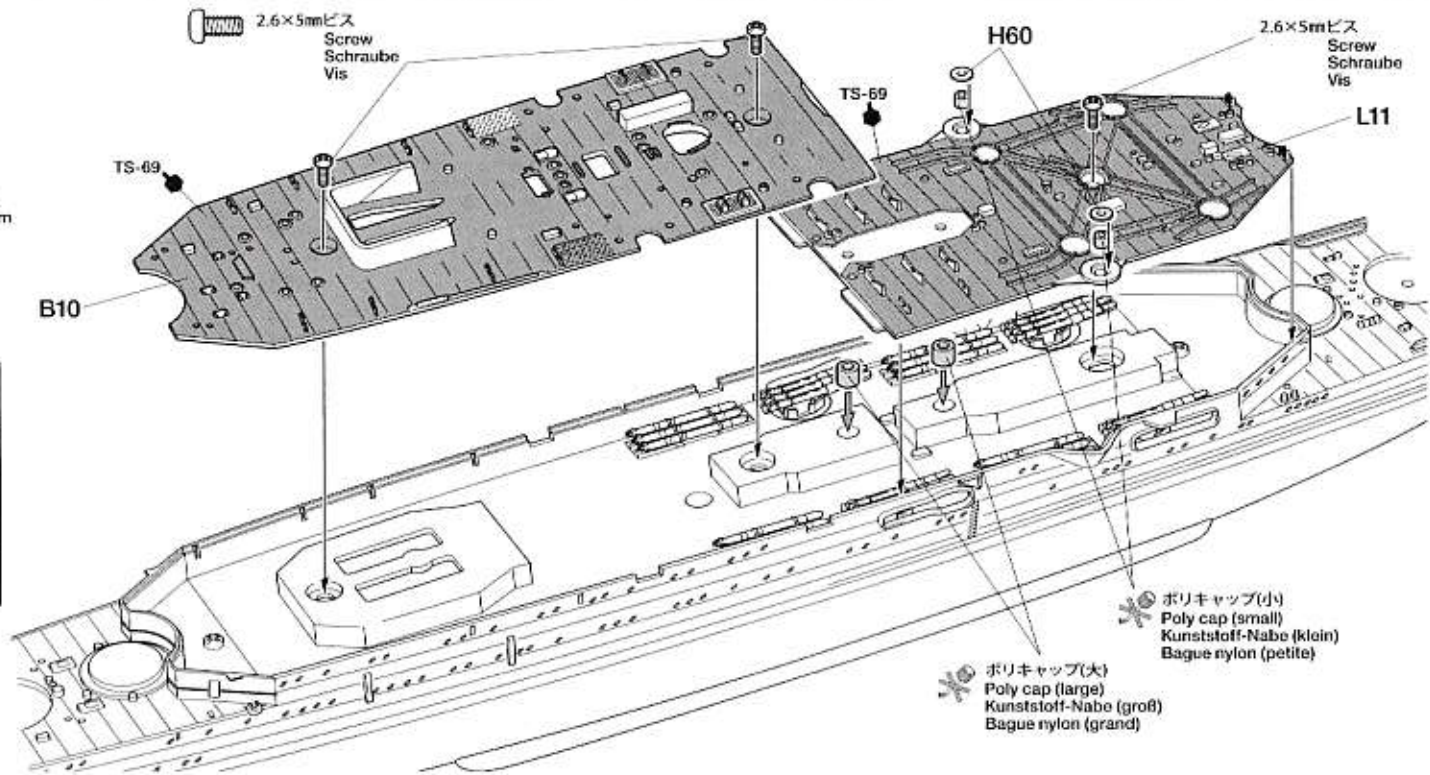
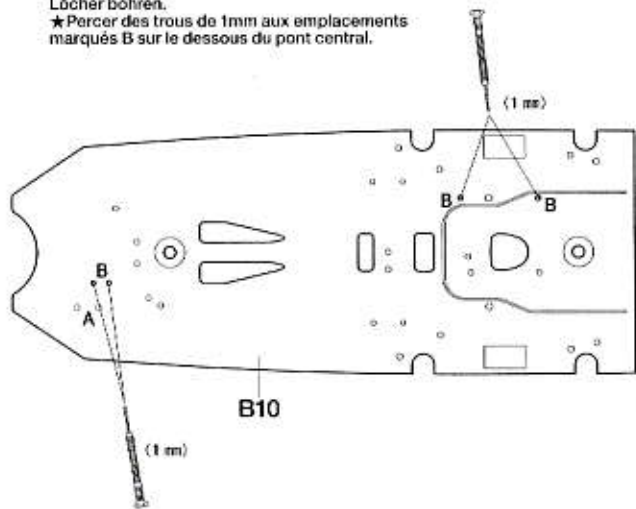
ポリキャップ(小)
 Poly cap (small)
 Kunststoff-Nabe (klein)
 Bague nylon (petite)

★当時の三隈は90式61cm3連装発射管を4基を装備し、魚雷を24本搭載していました。魚雷は90式魚雷を発射でき次弾を16.6秒で装填できました。魚雷の速力は46ノットで7,000m、35ノットなら15,000mまで走りました。
 ★Mikuma had four Type 90 61cm triple torpedo launchers and twenty four Type 90 torpedoes. Each torpedo could be loaded in 16.6 seconds and had a range of 7,000m and 15,000m at 46 and 35 knots respectively.
 ★Die Mikuma besaß vier Typ 90 61cm Dreifach-Torpedo-Abschussrohre und vierundzwanzig Torpedos Typ 90. Jeder Torpedo konnte binnen 16,6 Sekunden geladen werden und hatte eine Reichweite von 7.000m und 15.000m bei 46 bzw. 35 Knoten Geschwindigkeit.
 ★Le Mikuma avait quatre lance-torpilles triples de 61cm Type 90 et vingt-quatre torpilles Type 90. Chaque torpille pouvait être chargée en 16,6 secondes. La portée était de 7.000m à 46 nœuds et 15.000m à 35 nœuds.

10

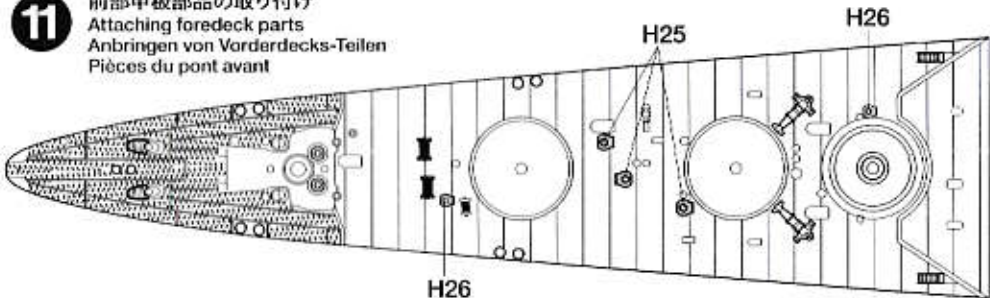
上部中央甲板の取り付け
Attaching central deck
Befestigen des Mitteldecks
Fixation du pont central

- ★図の部分に裏側からBの印がある部分に1mmの穴を開けます。
- ★Make 1mm holes on B marked points on the underside of the central deck.
- ★An der Unterseite des Mitteldecks an den mit B markierten Punkten 1mm Löcher bohren.
- ★Percer des trous de 1mm aux emplacements marqués B sur le dessous du pont central.

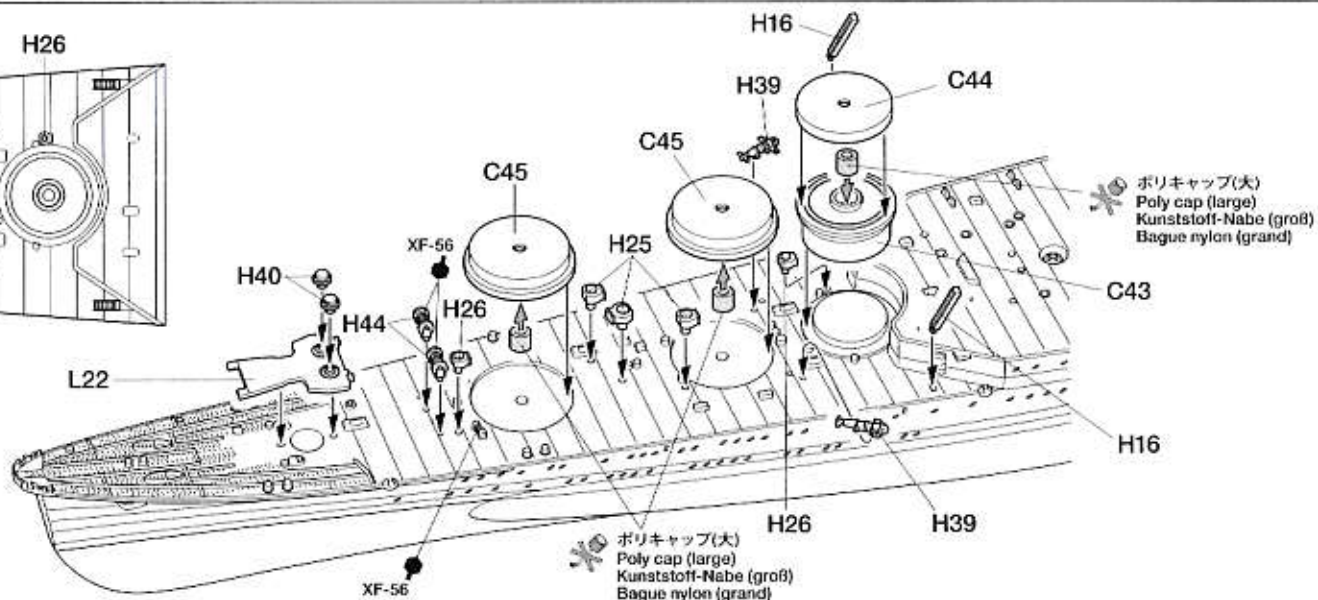


11

前部甲板部品の取り付け
Attaching foredeck parts
Anbringen von Vorderdecks-Teilen
Pièces du pont avant

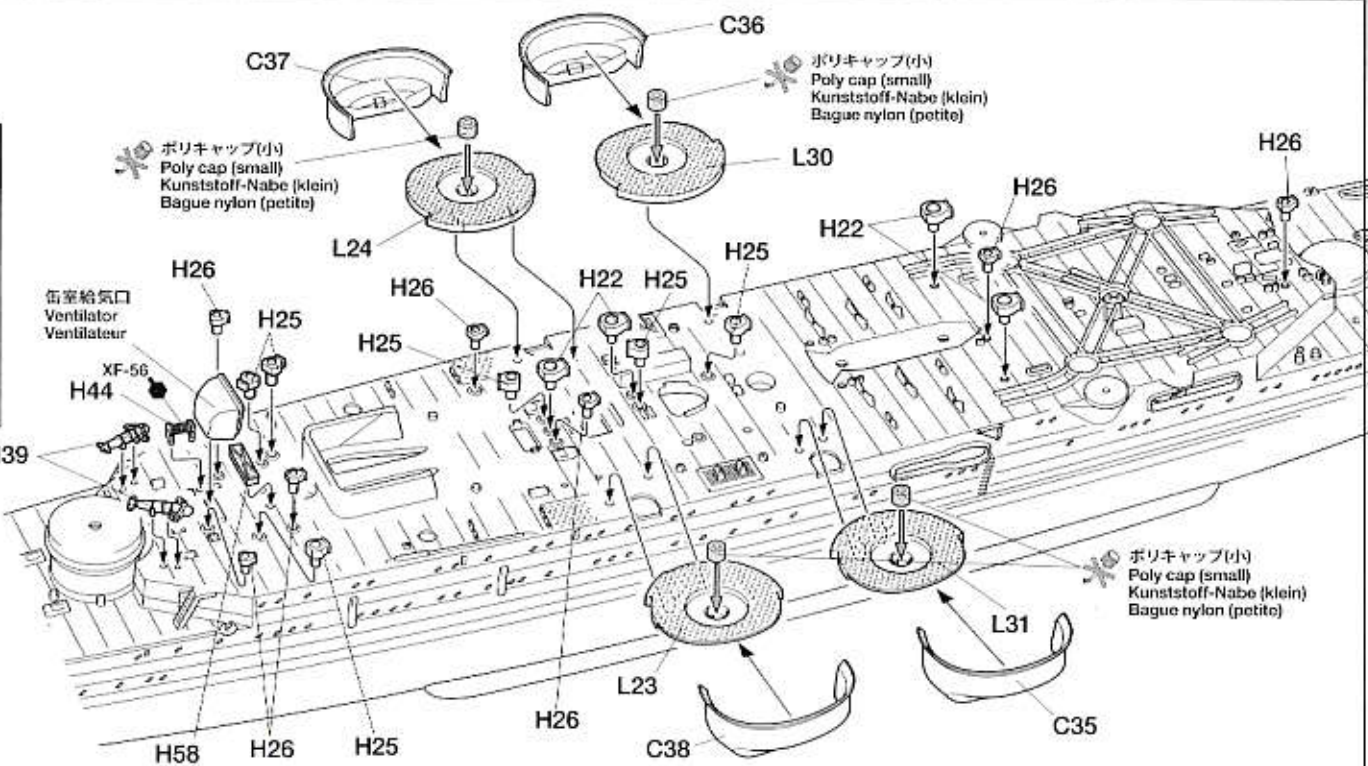
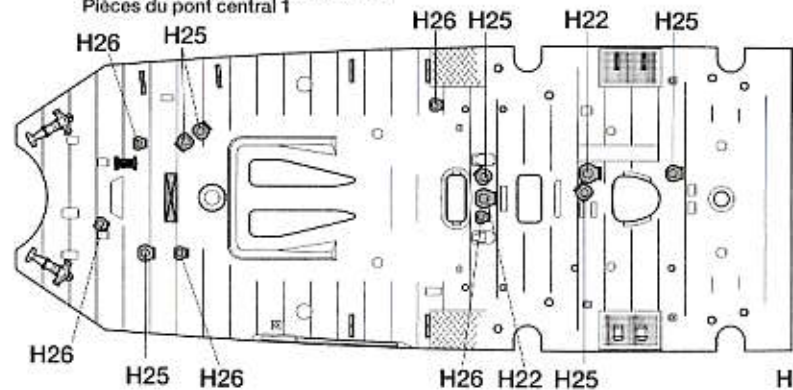


- ★切り取ります。
- ★Remove.
- ★Entfernen.
- ★Enlever.



12

中央甲板部品の取り付け1
Attaching central deck parts 1
Anbringen von Mitteldecks-Teilen 1
Pièces du pont central 1



ポリキャップ(小)
Poly cap (small)
Kunststoff-Nabe (klein)
Bague nylon (petite)

ポリキャップ(小)
Poly cap (small)
Kunststoff-Nabe (klein)
Bague nylon (petite)

ポリキャップ(小)
Poly cap (small)
Kunststoff-Nabe (klein)
Bague nylon (petite)

《缶室給気口》
Ventilator
Ventilateur

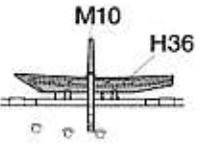
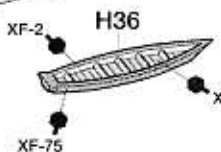
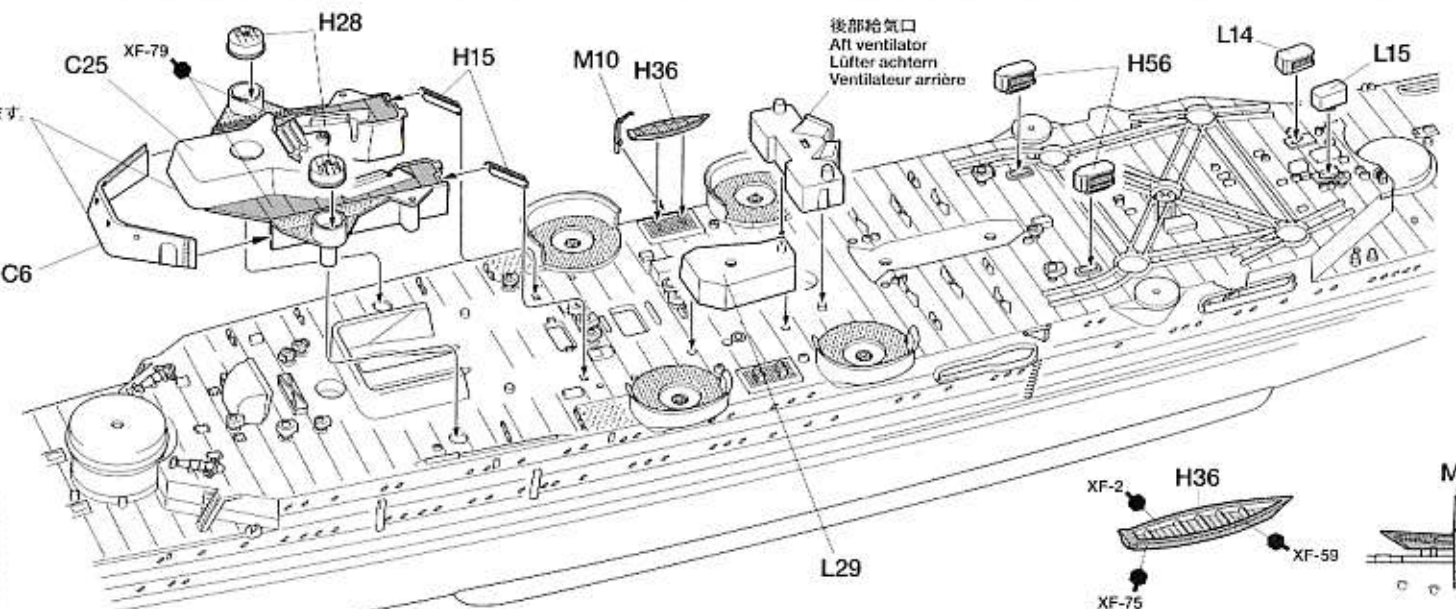
後部給気口
Aft ventilator
Lüfter achtern
Ventilateur arrière

13

艦橋基部の取り付け
Attaching bridge base
Befestigen der Brückenbasis
Fixation de la base de passerelle

- ★部品の切り出し口はきれいに切り取ります。
- ★Remove excess plastic.
- ★Überflüssiges Teil entfernen.
- ★Ebavurer.

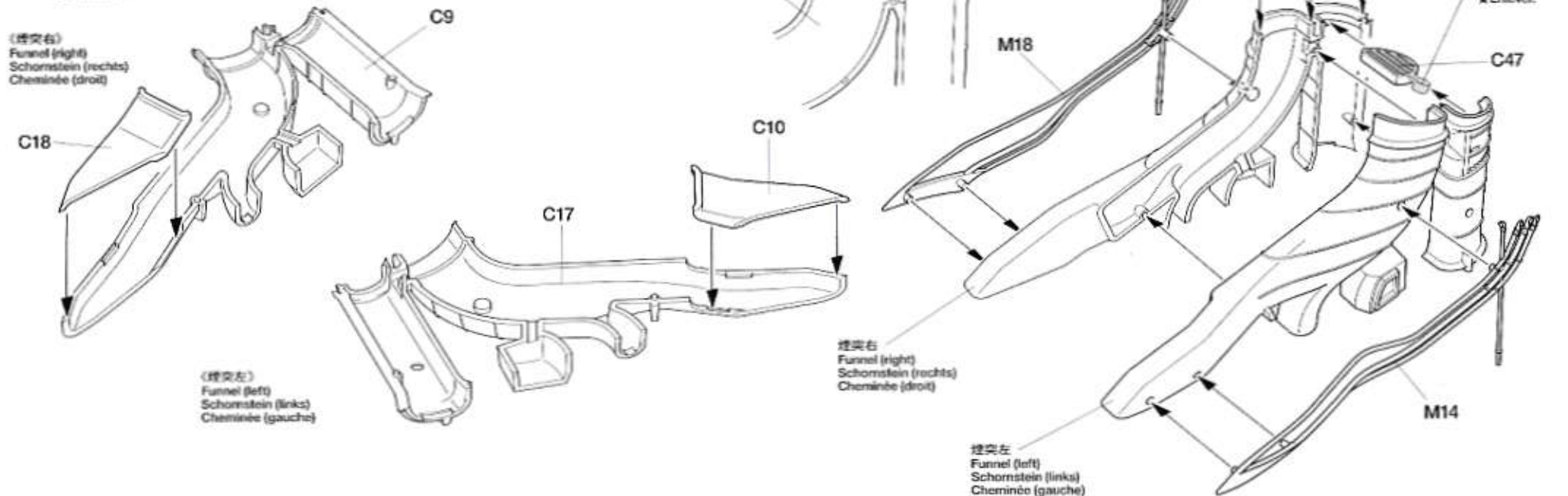
《後部給気口》
Aft ventilator
Lüfter achtern
Ventilateur arrière



- ★M部品の接着には流し込み接着剤をお使いください。
- ★Use Tamiya Extra Thin Cement for assembling M parts.
- ★Für Zusammenbau des Teiles M Tamiya Extra Dünne Kleber verwenden.
- ★Utiliser de la colle Tamiya extra-fluide pour assembler les pièces M.



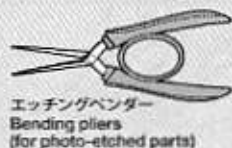
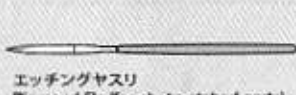
14 煙突の組み立て1
Funnel 1
Schornstein 1
Cheminée 1



★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

15 煙突の組み立て2
Funnel 2
Schornstein 2
Cheminée 2

《エッチング用工具》
Useful tools
Nützliche Werkzeuge
Outils utiles



《エッチングパーツの加工方法》
Photo-etched parts
Fotogelatzte Teile
Pièces photo-découpées



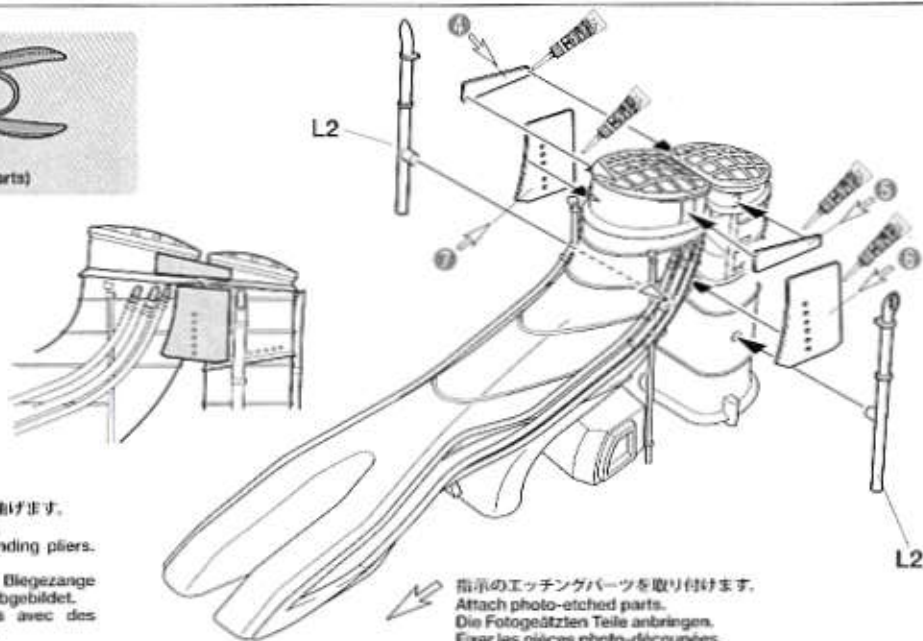
★エッチングパーツを丁寧に切り離します。
★Carefully cut out photo-etched parts.
★Die fotogelatzten Teile vorsichtig.
★Découper soigneusement les pièces en photo-découpe.



★ヤスリで余分な切り口をきれいにします。
★Carefully remove any excess.
★Alle Überstände vorsichtig.
★Éliminer soigneusement les excédents.



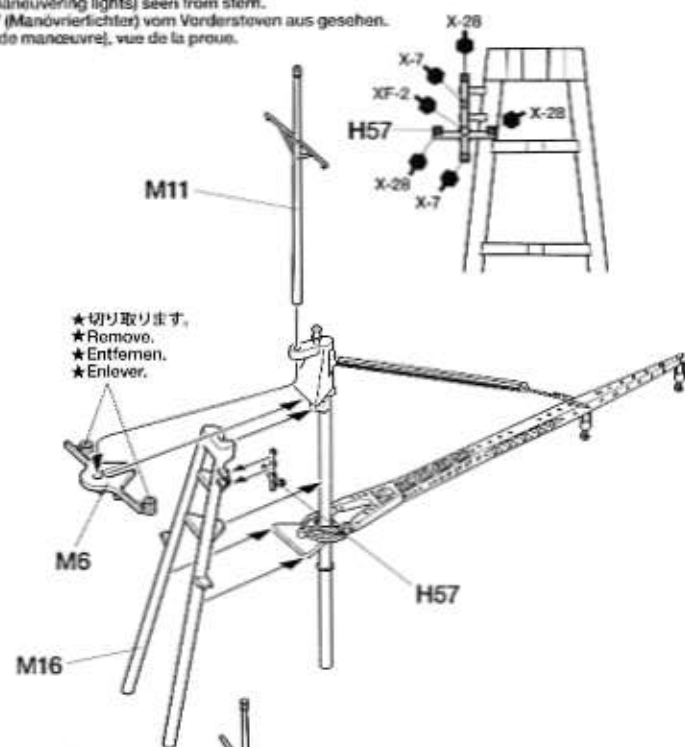
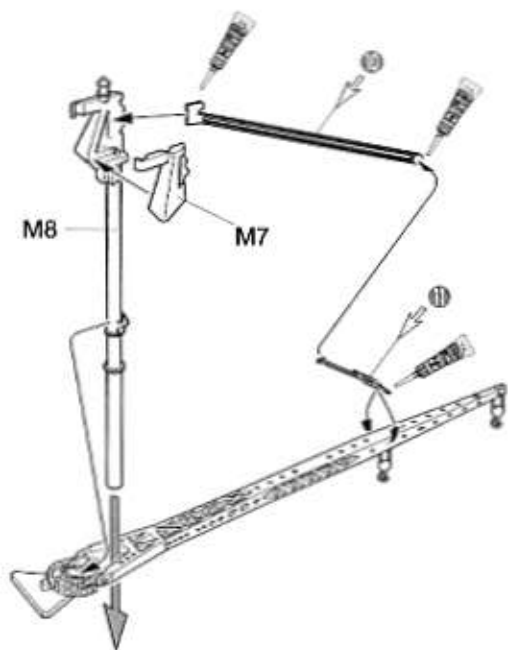
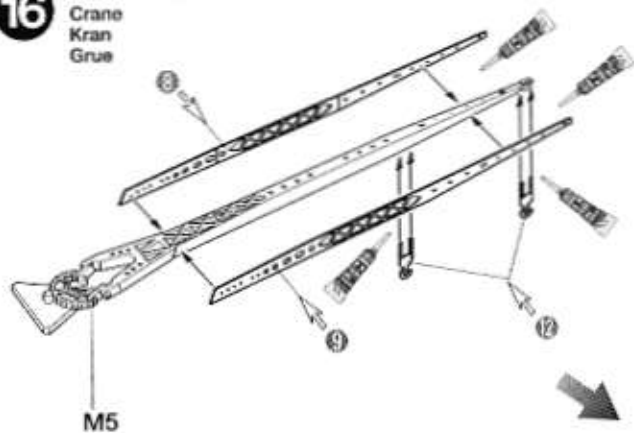
★エッチングベンダーで図のように折り曲げます。
折り曲げる時は、丁寧に曲けてください。
★Bend photo-etched parts using bending pliers.
Carefully bend as shown.
★Die fotogelatzten Teile mit einer Biegezange zurechtbiegen. Vorsichtig biegen wie abgebildet.
★Plier les pièces photo-découpées avec des pinces. Plier avec soin comme montré.



指示のエッチングパーツを取り付けます。
Attach photo-etched parts.
Die Fotogelatzten Teile anbringen.
Fixer les pièces photo-découpées.

16

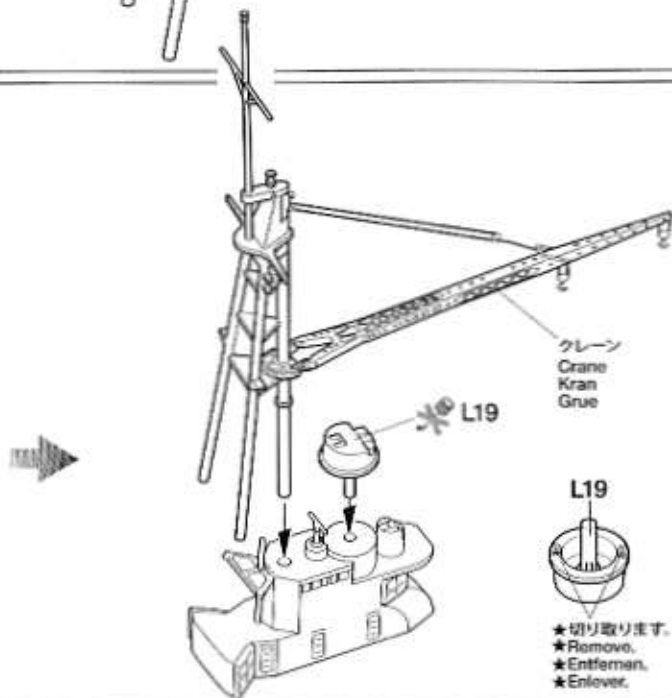
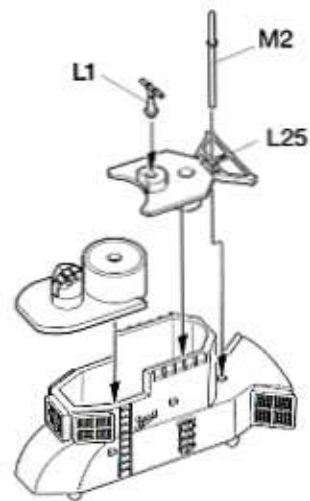
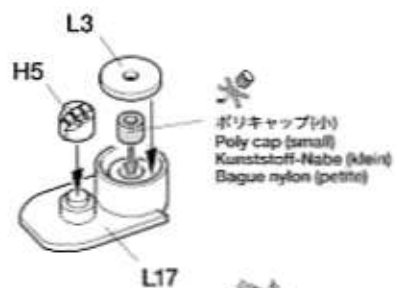
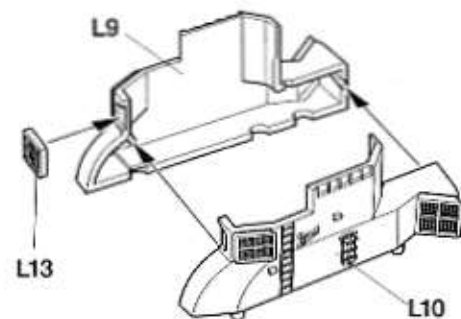
クレーンの組み立て
Crane
Kran
Grue



- ★H57(信号燈)を後ろから見た取り付け図です。
- ★Attachment position of H57 (maneuvering lights) seen from stern.
- ★Befestigungsposition von H57 (Manövrierlichter) vom Vorderstowen aus gesehen.
- ★Point de fixation de H57 (feux de manoeuvre), vue de la proue.

17

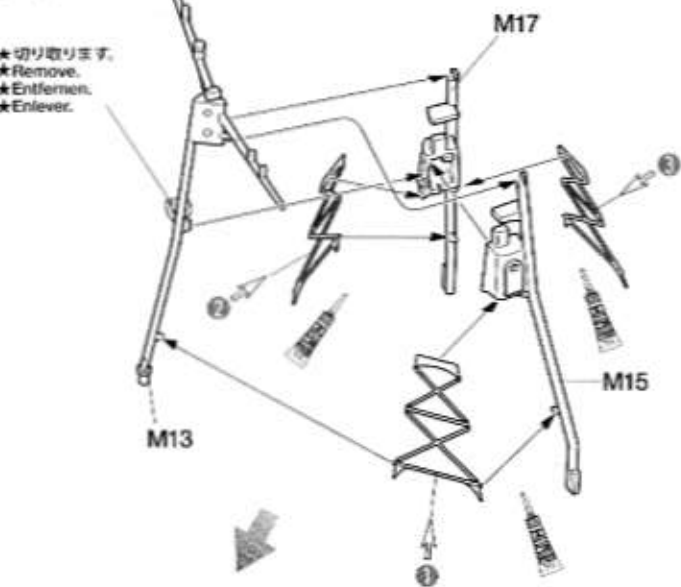
後部橋の組み立て
Aft bridge
Hintere Brücke
Superstructure arrière



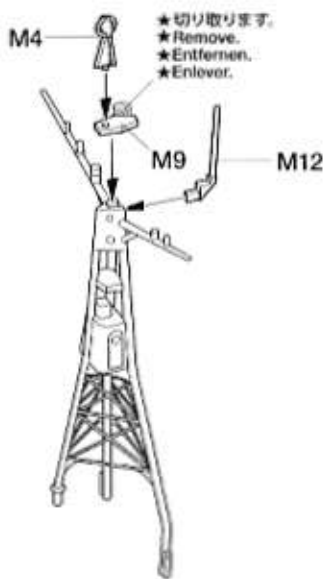
煙突の取り付け
Attaching funnel
Befestigen des Schornsteins
Fixation de la cheminée

〈メインマスト〉
Main mast
Hauptmast
Mât principal

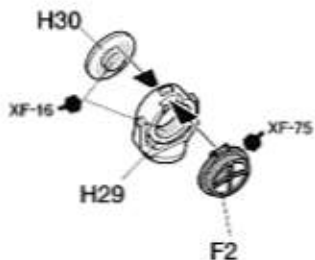
★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.



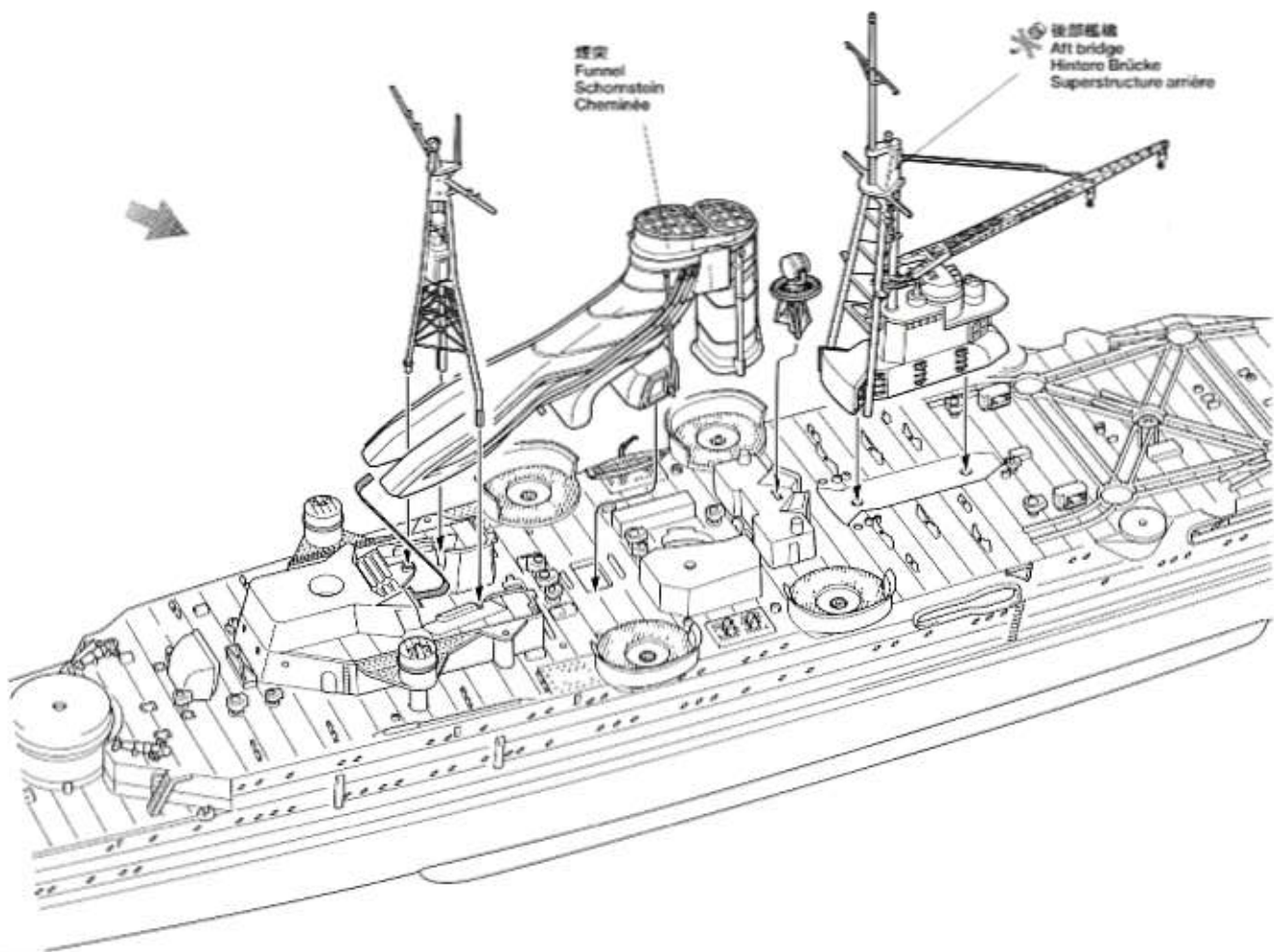
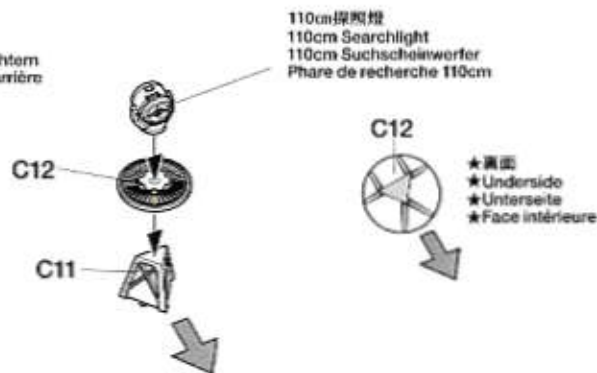
★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.



〈110cm探照燈〉
110cm Searchlight
110cm Suchscheinwerfer
Phare de recherche 110cm

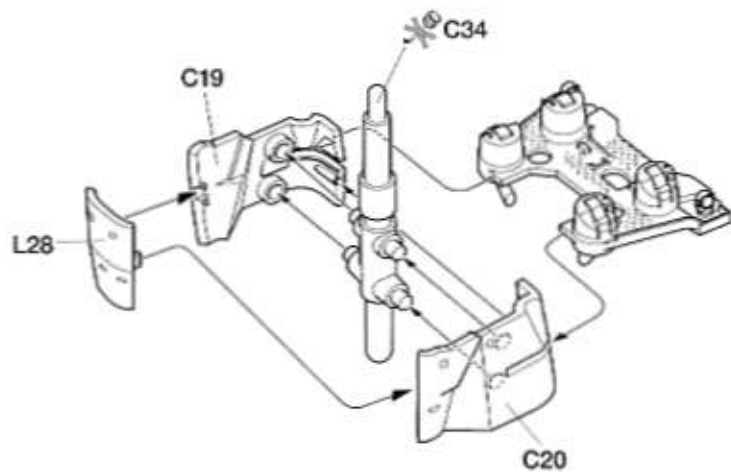
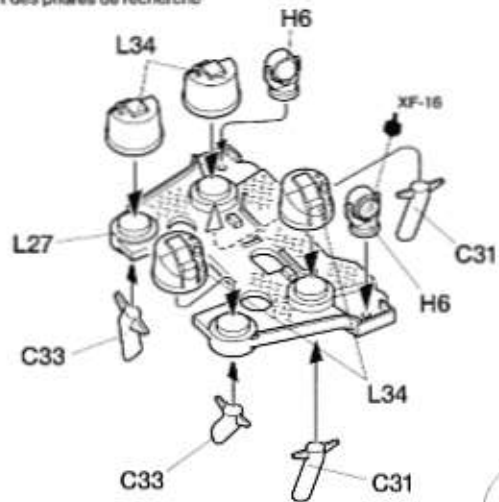


〈後部探照燈〉
Aft searchlight
Suchscheinwerfer achtern
Phare de recherche arrière

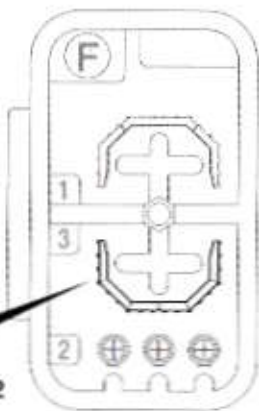


19 艦橋の組み立て
 Bridge
 Brücke
 Superstructure

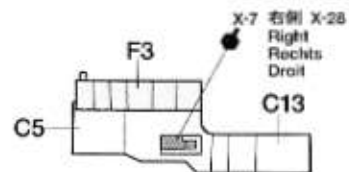
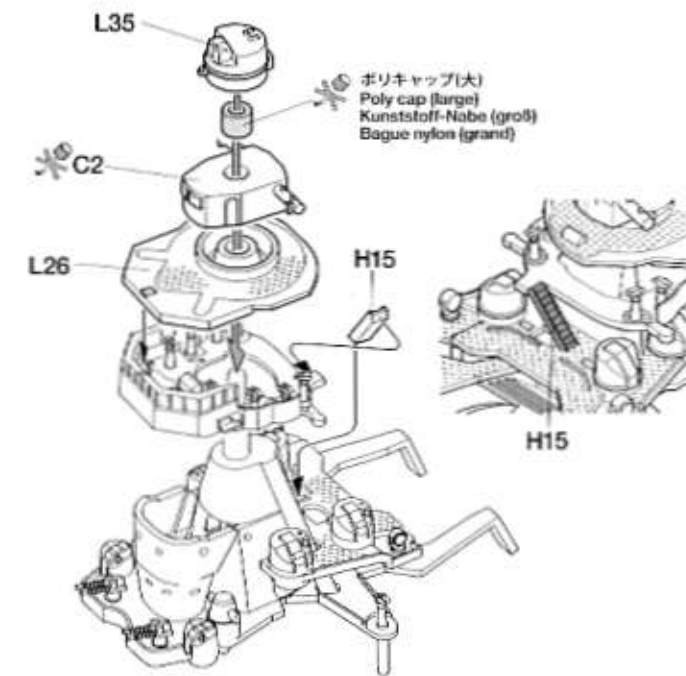
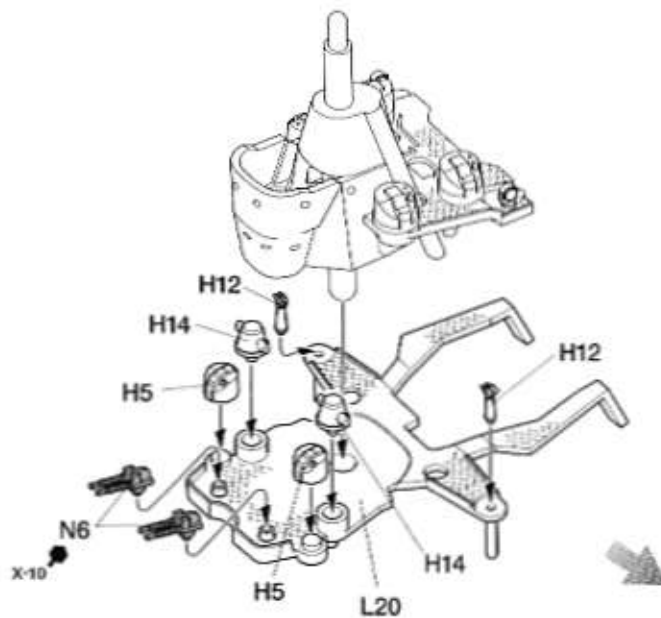
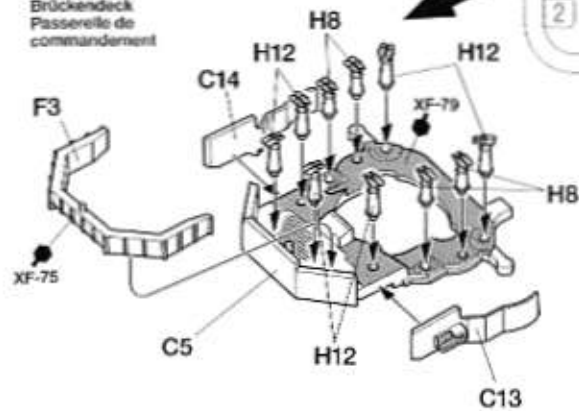
〈探照燈デッキ〉
 Searchlight deck
 Suchscheinwerfer-Deck
 Pont des phares de recherche



★F3を使用します。
 ★Use F3.
 ★F3 verwenden.
 ★Utiliser F3



〈艦針橋〉
 Bridge deck
 Brückendeck
 Passerelle de commandement



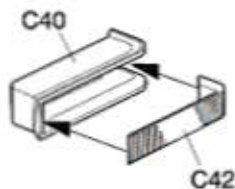
艦橋の取り付け
Attaching bridge
Brücke-Einbau
Fixation de la superstructure

〈中央給気口右〉
Central ventilator (right)
Zentraler Lüfter (rechts)
Ventilateur central (droit)

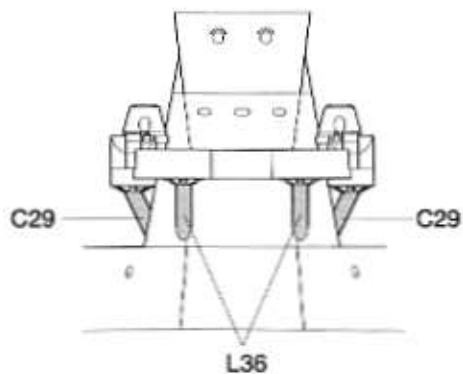


C41

〈中央給気口左〉
Central ventilator (left)
Zentraler Lüfter (links)
Ventilateur central (gauche)



C42

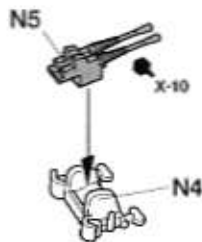


C29

C29

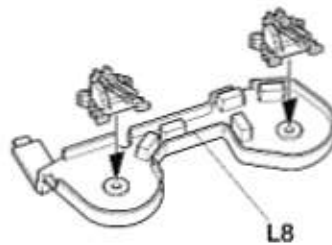
L36

〈25mm連装機銃〉
Twin 25mm guns
25mm Zwillings-Kanonen
Cannons doubles 25mm



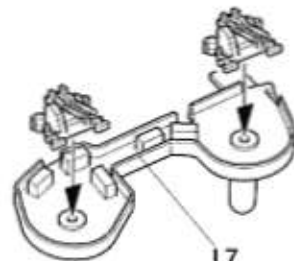
★4基作ります。
★Make 4.
★4 Satz anfertigen.
★Faire 4 jeux.

〈対空デッキ左〉
AA gun deck (left)
AA Kanonendeck (links)
Pont de défense anti-aérienne (gauche)



L8

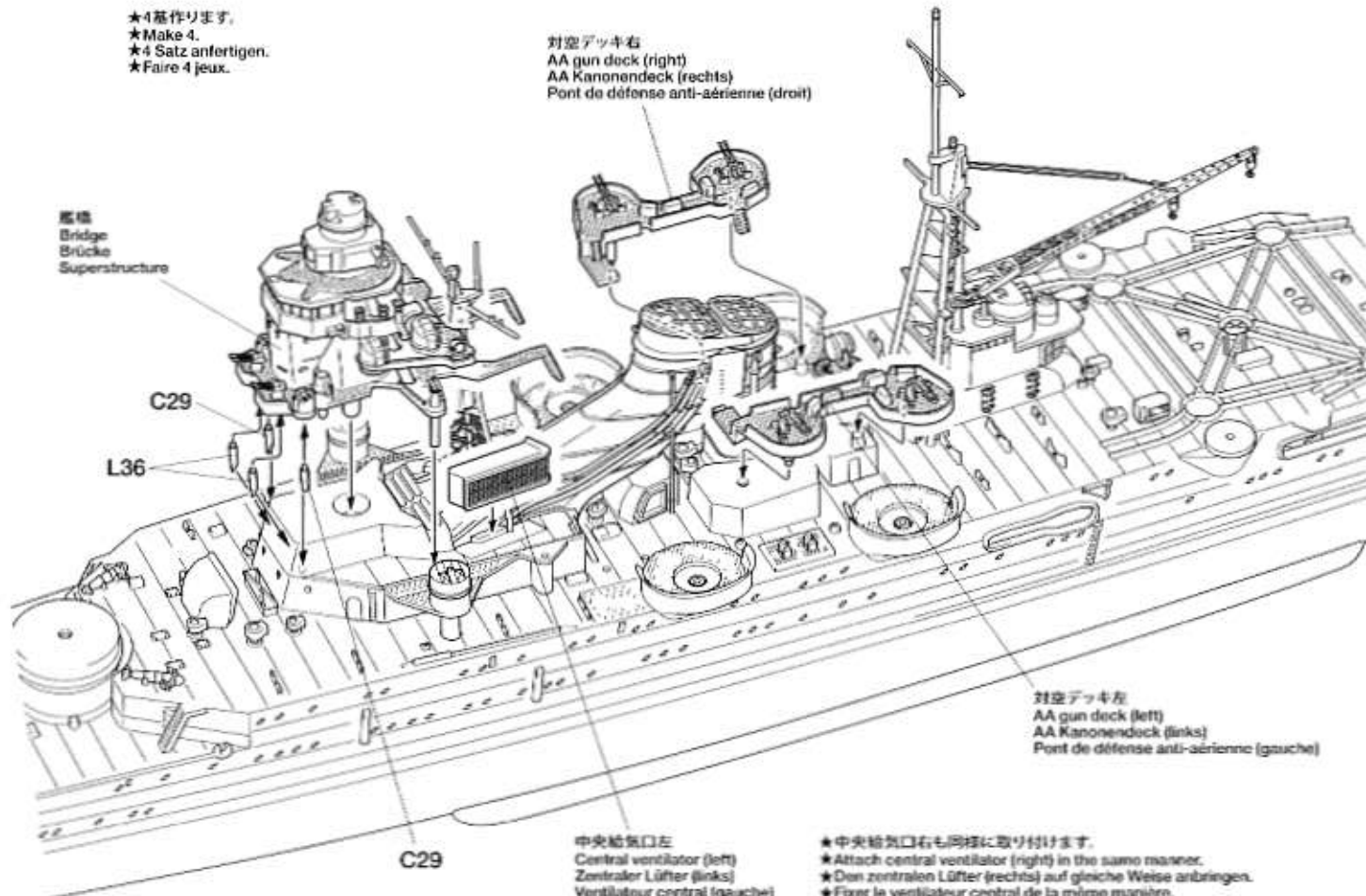
〈対空デッキ右〉
AA gun deck (right)
AA Kanonendeck (rechts)
Pont de défense anti-aérienne (droit)



L7

対空デッキ右
AA gun deck (right)
AA Kanonendeck (rechts)
Pont de défense anti-aérienne (droit)

艦橋
Bridge
Brücke
Superstructure



対空デッキ左
AA gun deck (left)
AA Kanonendeck (links)
Pont de défense anti-aérienne (gauche)

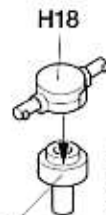
中央給気口左
Central ventilator (left)
Zentraler Lüfter (links)
Ventilateur central (gauche)

★中央給気口右も同様に取り付けます。
★Attach central ventilator (right) in the same manner.
★Don zentralen Lüfter (rechts) auf gleiche Weise anbringen.
★Fixer le ventilateur central de la même manière.

21

中央甲板部品の取り付け
Attaching central deck parts 2
Anbringen von Mitteldocks-Teilen 2
Pièces du pont central 2

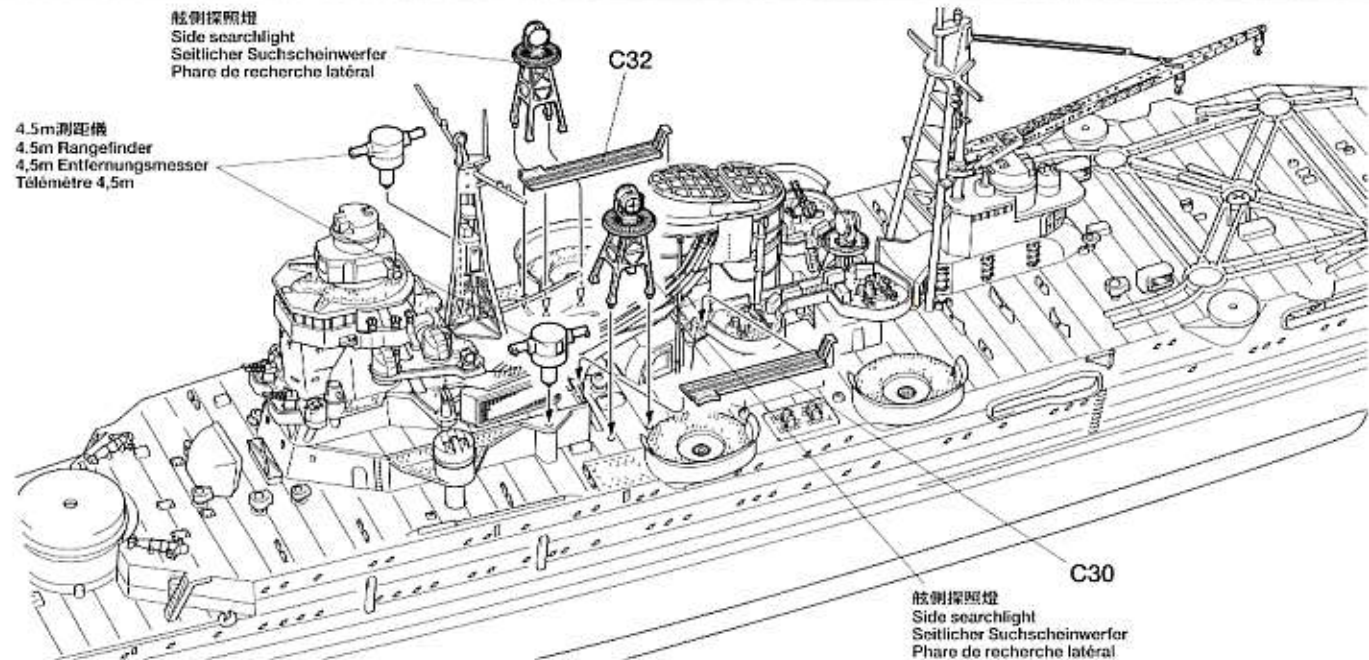
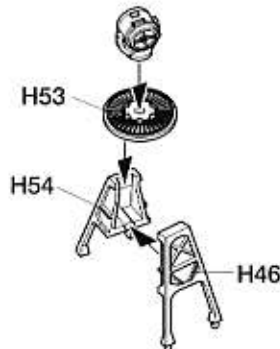
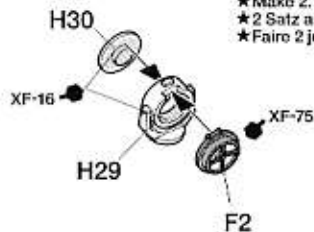
《4.5m測距儀》
4.5m Rangefinder
4,5m Entfernungsmesser
Télémetre 4,5m



★2基作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.

《舷側探照燈》
Side searchlight
Seitlicher Suchscheinwerfer
Phare de recherche latéral

★2基作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.



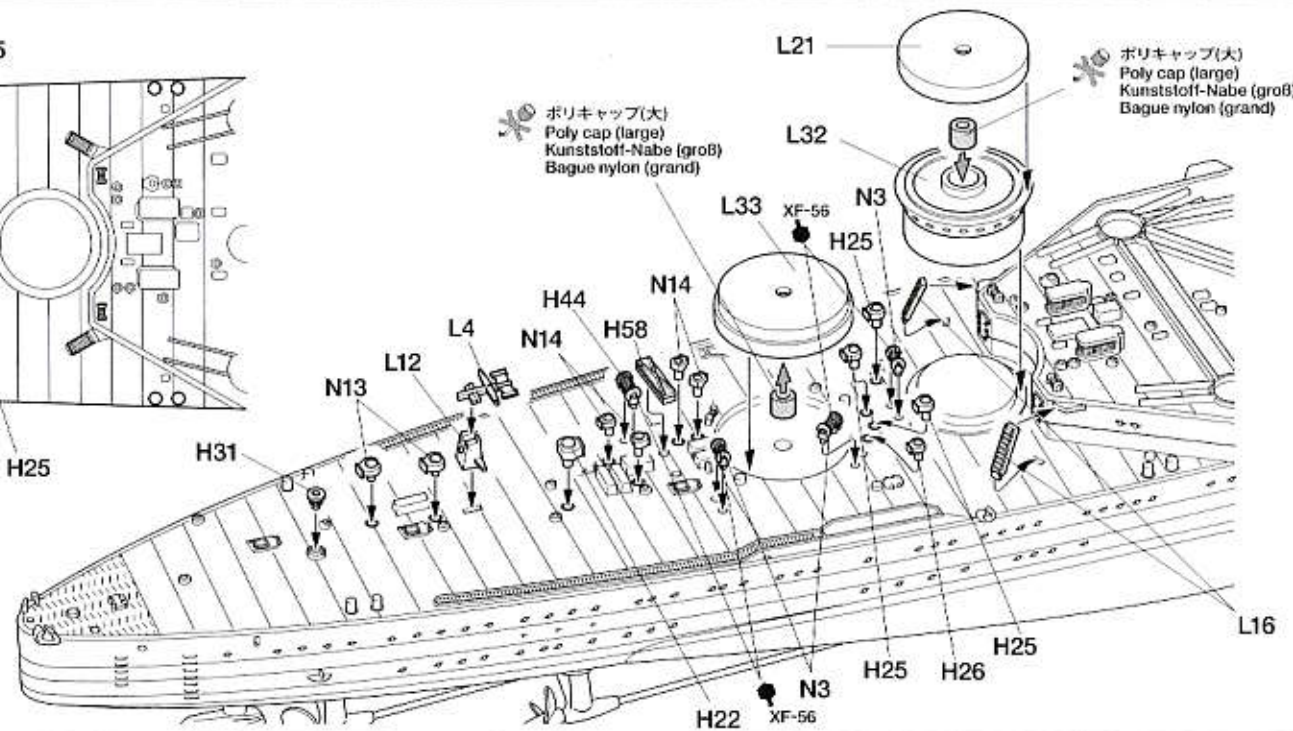
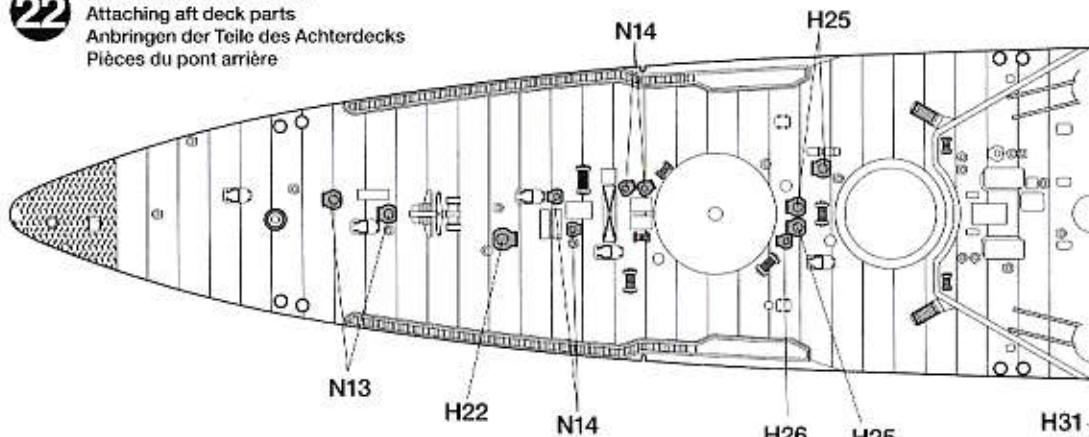
舷側探照燈
Side searchlight
Seitlicher Suchscheinwerfer
Phare de recherche latéral

4.5m測距儀
4.5m Rangefinder
4,5m Entfernungsmesser
Télémetre 4,5m

舷側探照燈
Side searchlight
Seitlicher Suchscheinwerfer
Phare de recherche latéral

22

後部甲板部品の取り付け
Attaching aft deck parts
Anbringen der Teile des Achterdecks
Pièces du pont arrière



✳️ ポリキャップ(大)
Poly cap (large)
Kunststoff-Nabe (groß)
Bague nylon (grand)

✳️ ポリキャップ(大)
Poly cap (large)
Kunststoff-Nabe (groß)
Bague nylon (grand)

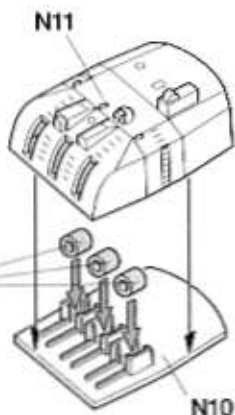
23

砲塔の組み立て

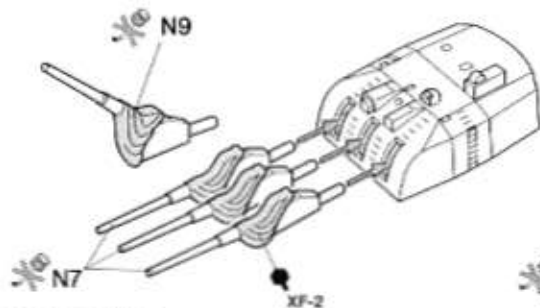
Turrets
Türme
Tourelles

(1番、2番、5番砲塔)
Turret No.1, No.2, and No.5
Turm Nr.1, Nr.2, and Nr.5
Tourelles 1, 2, et 5

ポリキャップ(小)
Poly cap (small)
Kunststoff-Nabe (klein)
Bague nylon (petite)

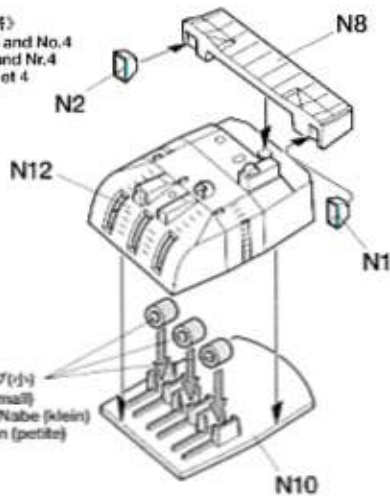


★3基作ります。
★Make 3.
★3 Satz anfertigen.
★Faire 3 jeux.



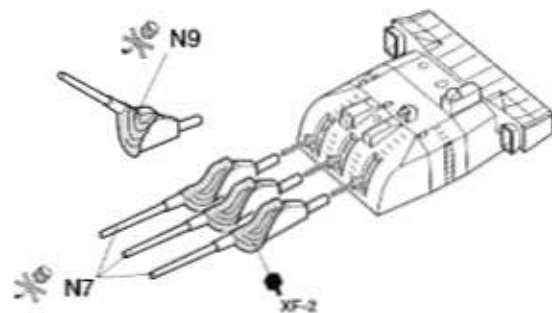
★砲身は角度が2種類あり、好みによって後から付け替えることができます。になっています。
★Gun barrels at 2 different angles are included and can be switched later as you wish.
★Kanonenrohre für 2 verschiedene Winkel sind enthalten und können auch später nach Belieben angeordnet werden.
★Le choix est offert entre des tubes à deux élévations différentes. Les utiliser à son gré.

(3、4番砲塔)
Turret No.3 and No.4
Turm Nr.3 und Nr.4
Tourelles 3 et 4



ポリキャップ(小)
Poly cap (small)
Kunststoff-Nabe (klein)
Bague nylon (petite)

★2基作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.



24

前部主砲の取り付け

Attaching front turrets
Einbau der vorderen Türme
Installation des tourelles avant

アンカーチェーンの取り付け方

★どちらか一方の穴にアンカーチェーンの先端を入れ瞬間接着剤で固定します。銅を参考にウィンチに巻き付けもう一方の穴に入れ瞬間接着剤で固定してください。その際、アンカーチェーンがたるまないように注意します。

How to attach anchor chain

First insert one end of the chain to either hole and secure with instant cement. Wrap it around the winch and insert into the other hole and secure as shown. Attach the chain without slack.

Wie die Ankerkette anzubringen ist

Setzen Sie zuerst ein Ende der Kette in eines der beiden Löcher und sichern Sie es mit Sekundenkleber. Die Kette um die Winch wickeln, in das andere Loch einführen und wie abgebildet festmachen. Die Kette ohne Durchhang befestigen.

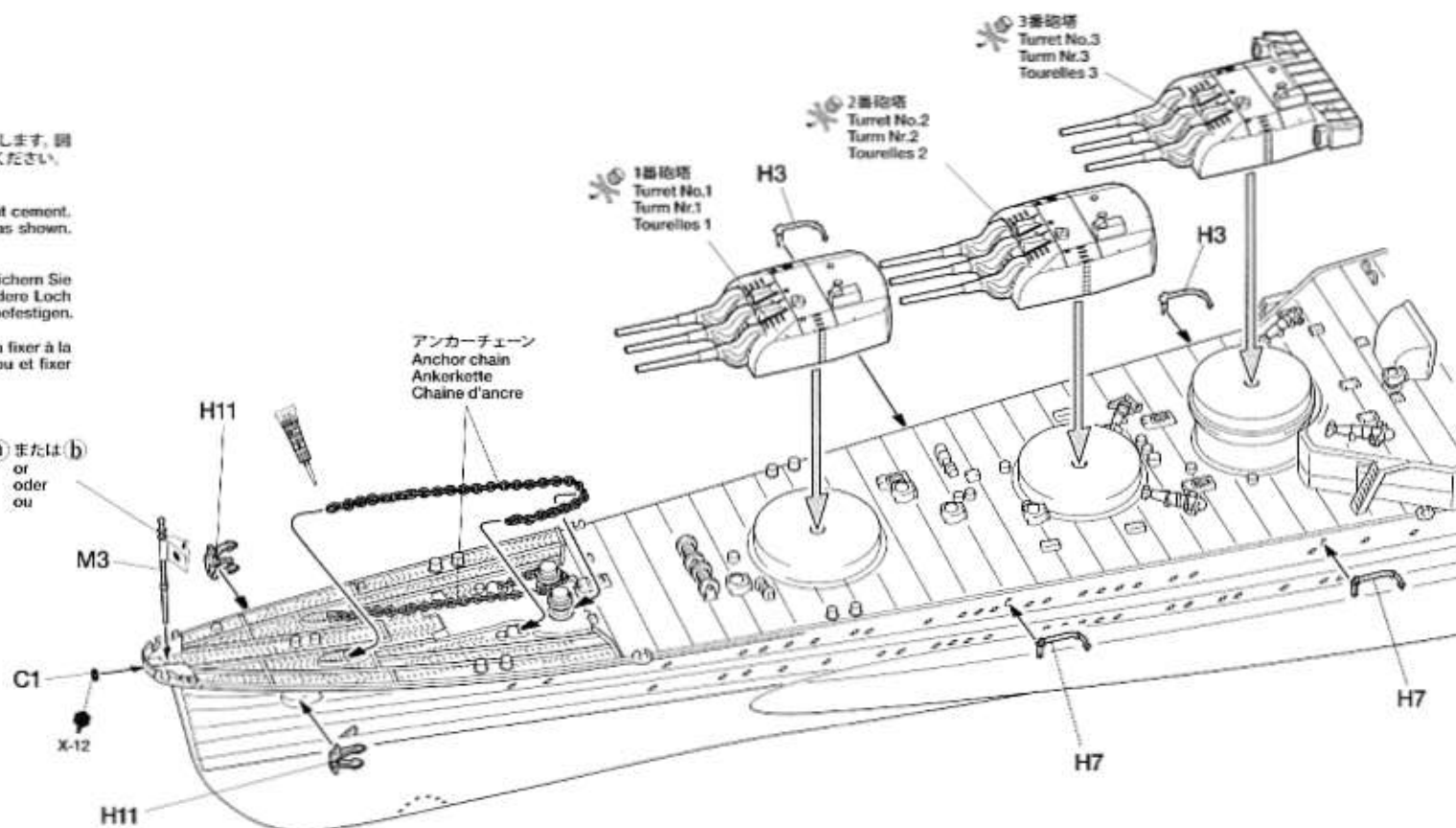
Comment fixer la chaîne d'ancre

Insérer en premier une extrémité de la chaîne dans l'un des trous et la fixer à la colle seconde. L'enrouler autour du cabestan, insérer dans l'autre trou et fixer comme montré. Fixer la chaîne bien tendue.

アンカーチェーン
Anchor chain
Ankerkette
Chaîne d'ancre

★停泊時に取り付けます。
★Attach when depicting the ship at anchor.
★Anbringen, wenn das Schiff vor Anker dargestellt wird.
★Pour le bateau à l'ancre.

a) または b)
or
ou



25

後部主砲の取り付け Attaching rear turrets Einbau der hinteren Turme Installation des tourelles arrière

★当初、三脚に装備された60口径三年式15.5cm砲は日本海軍初の三連装砲でした。他に類を見ない長砲身で、初速920m/秒、最大射程27,400m、加えて対空射撃も可能という優れた艦載砲でした。砲術関係者からの評価も高く、のちに20.3cm連装砲に換装する際は大変惜しまれたほどでした。なお最上型から取り外された15.5cm 三連装砲は後に戦艦「大和」「武蔵」の副砲として、また軽巡「大淀」の主砲として搭載され、その性能を遺憾なく発揮しました。

★The 60 caliber 3rd Year Type 15.5cm gun was the Japanese Navy's first triple mounted gun. The long-barreled weapon featured a muzzle velocity of 920m/s, maximum range of 27,400m, and had anti-aircraft capability. It was highly regarded by naval artillery experts, even more so than the twin 20.3cm gun turrets that replaced it. After they were removed from the Mogami-class, they were installed as secondary armament for the Yamato and Musashi battleships as well as main armament for the light cruiser Oyodo.

★Die 15,5cm Kanone Kaliber 60 Typ 3. Jahr war die erste Dreifach-Kanone der Japanischen Marine. Die Langrohr-Waffe hatte eine Mündungsgeschwindigkeit von 920m/s, eine Maximale Reichweite von 27,400m und Einsatzmöglichkeit zur Luftabwehr. Sie wurde von Experten für Marine-Artillerie hoch eingestuft, sogar höher als die 20,3cm Zwillingstürme, die sie ersetzten. Nachdem sie bei der Mogami-Klasse ausgebaut waren, wurden sie als Sekundärbewaffnung für Yamato und Musashi Schlachtschiffe eingebaut, ebenso als Hauptbewaffnung für den Leichten Kreuzer Oyodo.

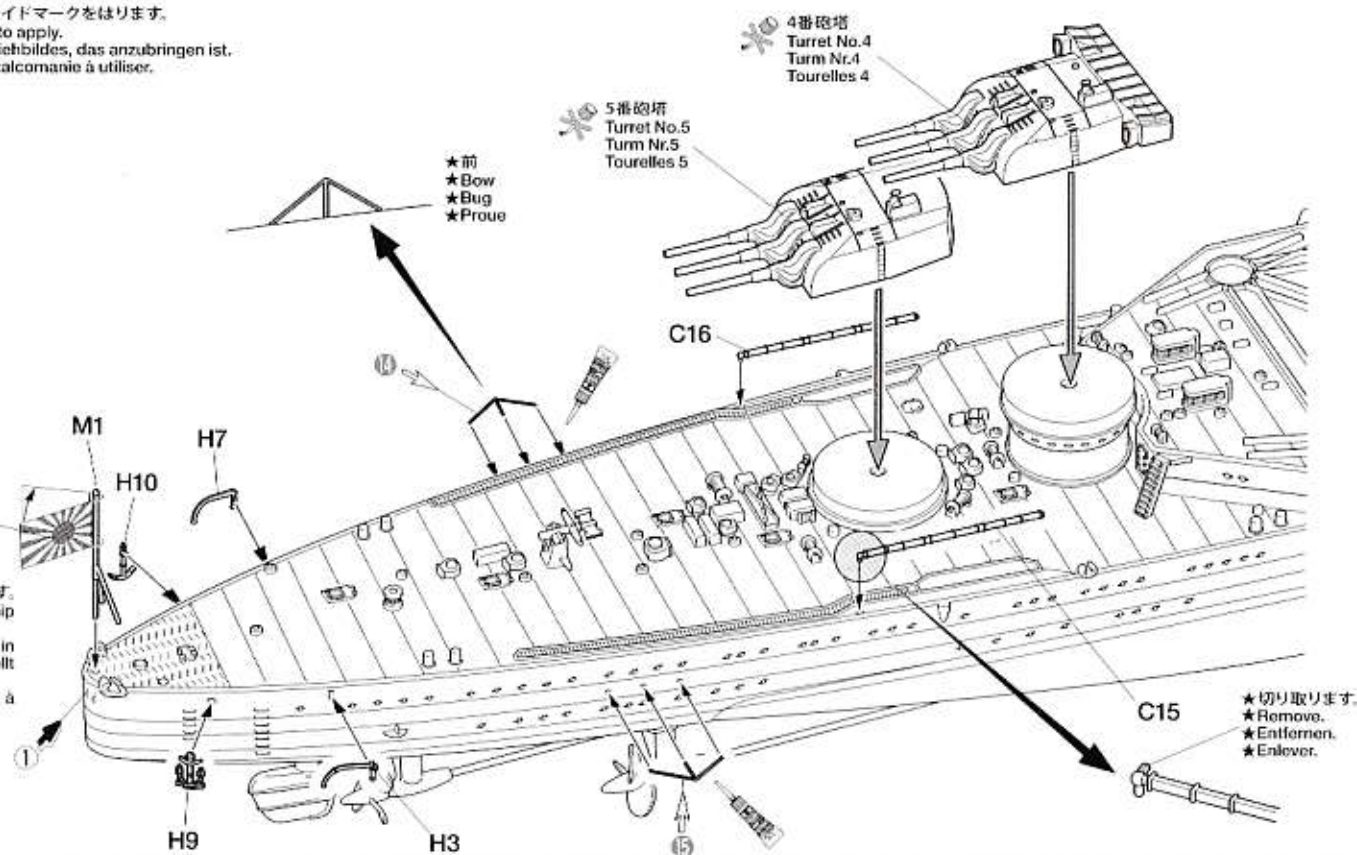
★Le canon de 155mm 60 calibres Type 3ème Année fut le premier canon japonais installé en triplette. Cette arme à tube long avait une vitesse initiale de 920m/s, une portée de 27,400m et pouvait être employée contre les avions. Les experts en artillerie navale considéraient cette tourelle comme une des meilleures, supérieure à la tourelle double de 203mm qui lui succéda. Après leur dépose de la classe Mogami, elles furent réinstallées sur les cuirassés Yamato et Musashi comme armement secondaire et sur le croiseur léger Oyodo comme armement principal.



指示の番号のスライドマークをはります。
Number of decal to apply.
Nummer des Abziehbildes, das anzubringen ist.
Numéro de la décalcomanie à utiliser.

e) または f)
or
oder
ou

★航行時と停泊時に取り付けます。
★Attach when depicting the ship while underway or at anchor.
★Anbringen, wenn das Schiff in Fahrt oder vor Anker dargestellt wird.
★Pour le bateau en route ou à l'ancre.



26

高角砲の組み立て High angle guns Kanonen mit großem Hubwinkel Canons à haute élévation

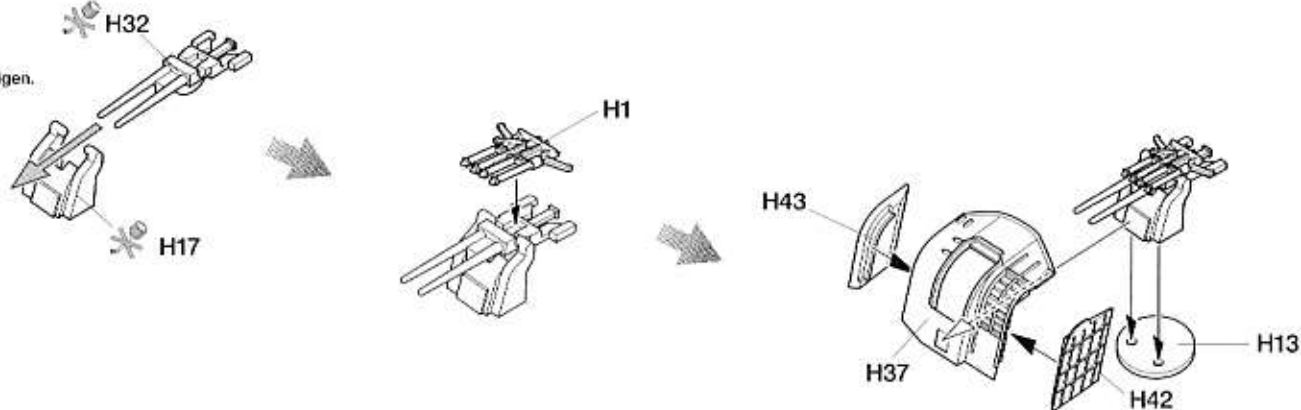
★この高角砲は正式には40口径八九式12.7cm連装高角砲といいます。射程は3,000~12,000mで最大仰角は90度にもなります。三脚はこの砲を連装砲とし、盾つきのA1型改1を片側2門計4門装備していました。

★These guns were officially called 12.7cm 40 caliber Type 89 twin high angle guns. They featured a 3,000 to 12,000m firing range with a maximum elevation angle of 90 degrees. Mikuma was fitted with 2 mounts on each side, 8 guns in total.

★Diese Kanonen wurden offiziell 12,7cm 40 Kaliber Typ 89 Zwillings-Kanonen mit steilem Anstellwinkel genannt. Sie besaßen eine Feuerreichweite von 3,000 bis 12,000m und einen maximalen Anstellwinkel von 90 Grad. Die Mikuma war mit 2 Kanonenhaltungen auf jeder Seite ausgerüstet, insgesamt also 8 Kanonen.

★Ces canons étaient officiellement dénommés canons doubles à haute élévation 127mm calibre 40 Type 89. Ils avaient une portée de 3,000 à 12,000 mètres à un angle maximal d'élévation de 90°. Le Mikuma était équipé de deux affûts par côté, soit 8 canons au total.

★4基作ります。
★Make 4.
★4 Satz anfertigen.
★Faire 4 jeux.



27

内火艇の組み立て
Boats and launches
Boote und Barkassen
Vedettes et annexes

★内火艇(海軍辞典では「うちびてい」と読む)は主に士官の上陸用にもちいたほか、停泊地での哨戒任務に使用されました。内火ランチは主に兵員輸送に使用しました。スタイルはカッターにエンジンを取り付けただけのもので、輸送能力を重視しています。

★Motor boats were mainly used for bringing officers to shore and patrolling duties. Motor launches, cutters with engines, were mainly used to transport troops.

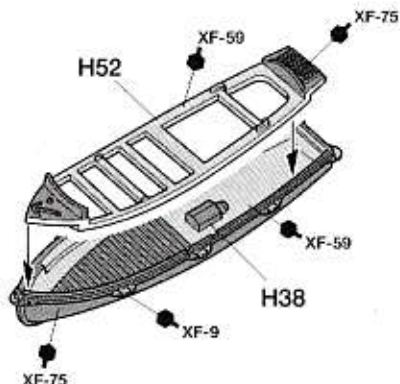
★Motorboote wurden hauptsächlich dazu benutzt, Offiziere an Land zu bringen oder für Patrouillen-Aufgaben. Motorbarkassen, Kutter mit Motor, wurden hauptsächlich für den Truppentransport eingesetzt.

★Les vedettes étaient principalement utilisées pour débarquer les officiers à terre et les patrouilles. Les annexes à moteur étaient principalement utilisées pour transporter les troupes.

〈12m内火ランチ〉
12m motor launch
12m Beiboot
Annexe de 12m

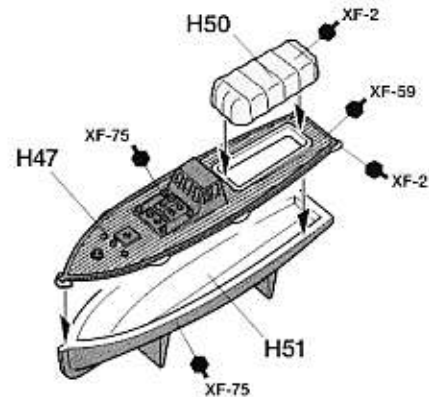
★2冊作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.

★H48は12m内火ランチの帳です。
★H48 is a canvas cover for 12m motor launch.
★H48 is eine Segeltuch-Abdeckung für das 12m Beiboot.
★H48 est une bâche pour canot de 12m.



〈11m内火艇〉
11m motor boat
11m Motorboot
Vedette de 11m

★2冊作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.



★切り取ります。
★Remove.
★Entfernen.
★Enlever.

28

中央甲板部品の取り付け
Attaching central deck parts 3
Anbringen von Mitteldecks-Teilen 3
Pièces du pont central 3

★舷側に装備していた9mカッターは人員輸送、需品運搬に使用するほか救助用にも使用され、12人のこぎ手で45名の人員を運搬できました。またこれらのカッターはAのように船外につるすことで、甲板上を広くし作業性を重視出来ました。またBのように甲板上に固定している場合もありました。

★9m cutters were used to transport personnel and supplies. They were also used as lifeboats and could carry 45 passengers, plus 12 oarsmen. Cutters were hung from radial davits as shown in A to ensure enough deck space. They were also secured on the deck as shown in B.

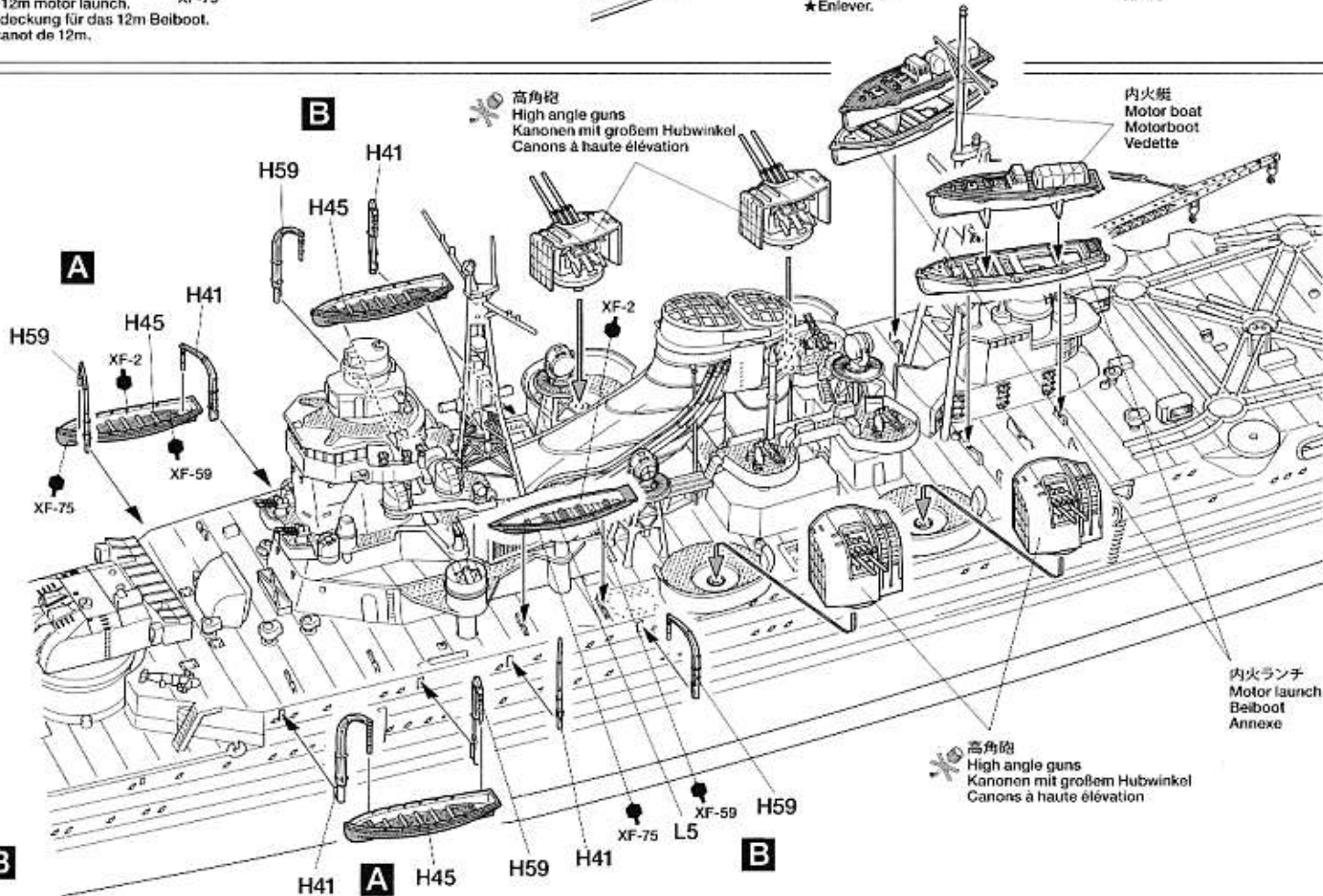
★9m Kutter wurden zum Transport von Personal und Nachschub eingesetzt. Sie dienten auch als Rettungsboote und konnten 45 Passagiere, dazu 12 Ruderer transportieren. Kutter wurden zwecks ausreichend freien Decksraums in radialen Davits aufgehängt, wie bei A abgebildet. Sie wurden auch, wie bei B abgebildet, auf Deck verstaut.

★Les canots de 9m servaient au transport de personnel et de matériel. Ils servaient également d'embarcations de survie et pouvaient accueillir 45 passagers en plus des 12 rameurs. Les canots étaient suspendus à des bossoirs arborés comme montré en A, dégagant l'espace sur le pont. Ils étaient également fixés au pont comme montré en B.

★H41, H59をAのようにする場合は右図のAの部分でBのようにする場合はBの部分の切り落としてください。
★Cut off tab A when depicting the hanging cutter. Cut off tab B when depicting the cutter secured.

★Die Lasche A abschneiden, wenn der hängende Kutter dargestellt wird. Die Lasche B abschneiden, wenn der verstaute Kutter dargestellt wird.

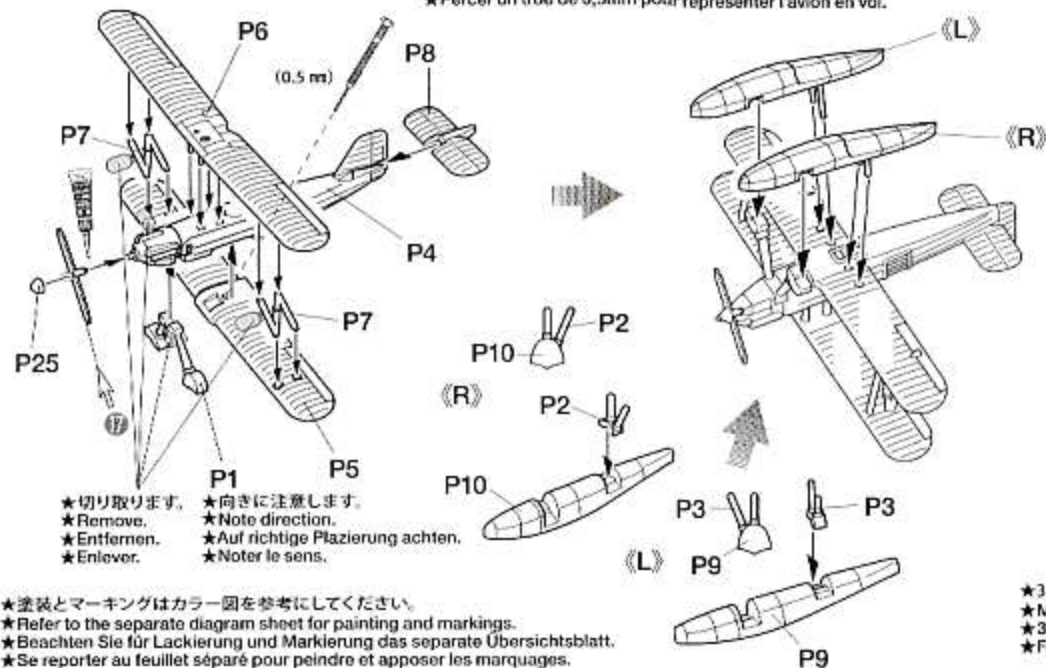
★Couper la languette A pour représenter une embarcation suspendue. Couper la languette B pour une embarcation entreposée sur le pont.



29

九四式三座水上偵察機の組み立て Kawanishi E7K

★飛行状態にする場合はこの部分に0.5mmの穴を開けます。
★Make 0.5mm hole when depicting the plane in flight.
★Ein 0,5mm Loch bohren, wenn das Flugzeug während des Flugs dargestellt werden soll.
★Percer un trou de 0,5mm pour représenter l'avion en vol.



《九四式三座用射出台車》
Catapult trolley for Kawanishi E7K
Katapultwagen für Kawanishi E7K
Chariot de catapultage pour Aichi Kawanishi E7K

《飛行機運搬台車》
Aircraft transport trolley
Flugzeug-Transportwagen
Chariot de manutention d'avions

★3台作ります。
★Make 3.
★3 Satz anfertigen.
★Faire 3 jeux.

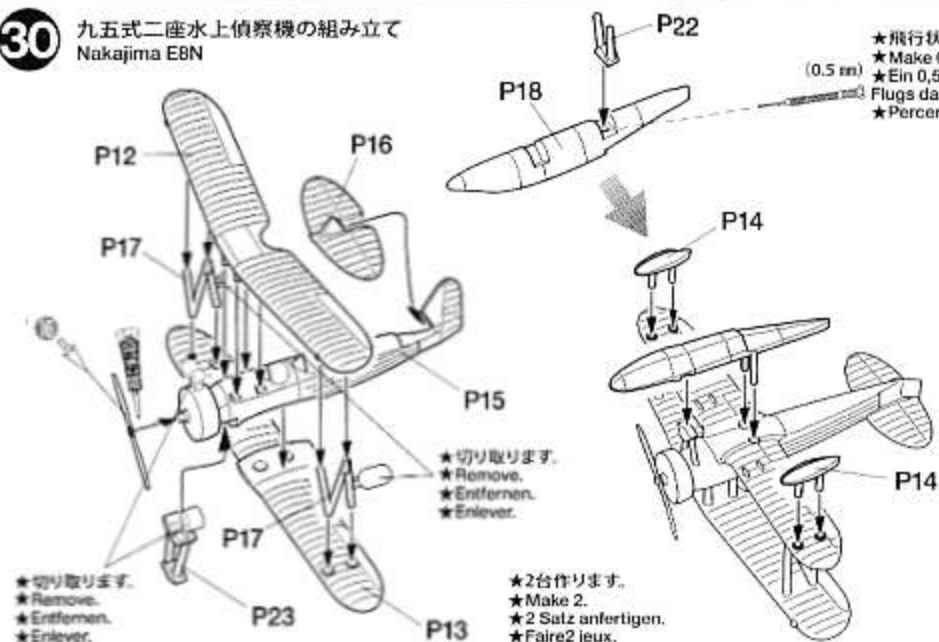
★前
★Front
★Vorder
★Avant

★前
★Front
★Vorder
★Avant

30

九五式二座水上偵察機の組み立て Nakajima E8N

★飛行状態にする場合はこの部分に0.5mmの穴を開けます。
★Make 0.5mm hole when depicting the plane in flight.
★Ein 0,5mm Loch bohren, wenn das Flugzeug während des Flugs dargestellt werden soll.
★Percer un trou de 0,5mm pour représenter l'avion en vol.



《九五式二座用射出台車》
Catapult trolley for Nakajima E8N
Katapultwagen für Nakajima E8N
Chariot de catapultage pour Nakajima E8N

★2台作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.

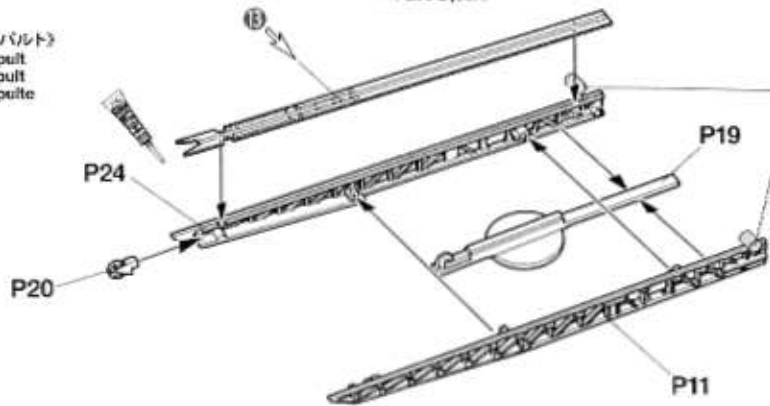
★前
★Front
★Vorder
★Avant

★前
★Front
★Vorder
★Avant

艦載機の搭載
Attaching planes
Befestigung der Flugzeug
Fixation des avions

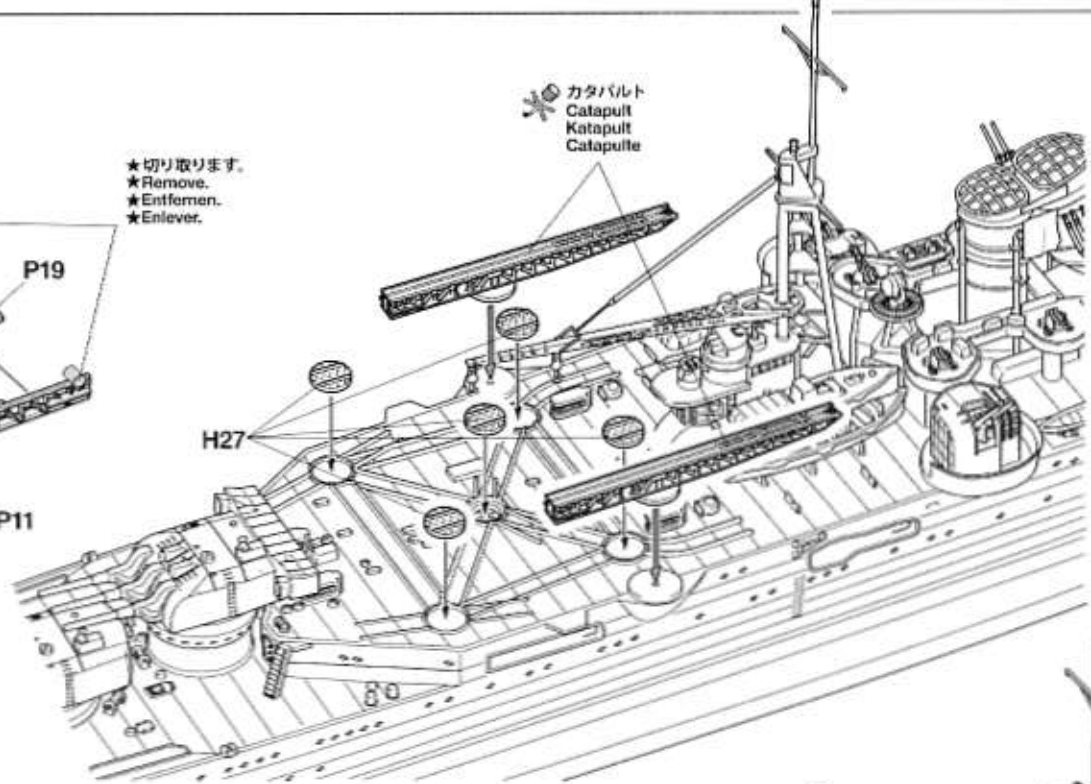
- ★2基作ります。
- ★Make 2.
- ★2 Satz anfertigen.
- ★Faire 2 jeux.

〔カタパルト〕
Catapult
Katapult
Catapulte



- ★切り取ります。
- ★Remove.
- ★Entfernen.
- ★Enlever.

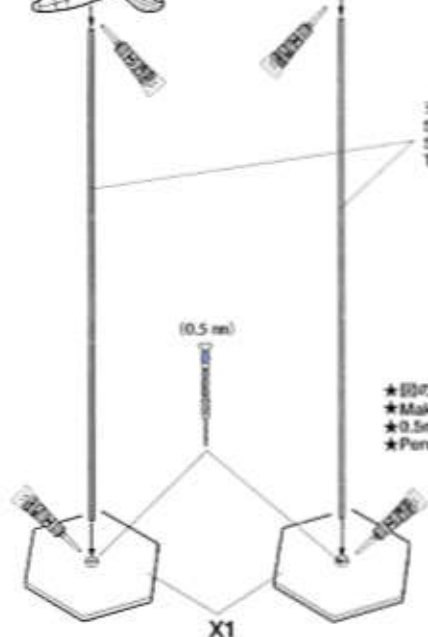
✂ カタパルト
Catapult
Katapult
Catapulte



〔飛行状態にする場合〕
When depicting a plane in flight
Bei Darstellung des Flugzeugs im Flug
Repräsentation d'un avion en vol

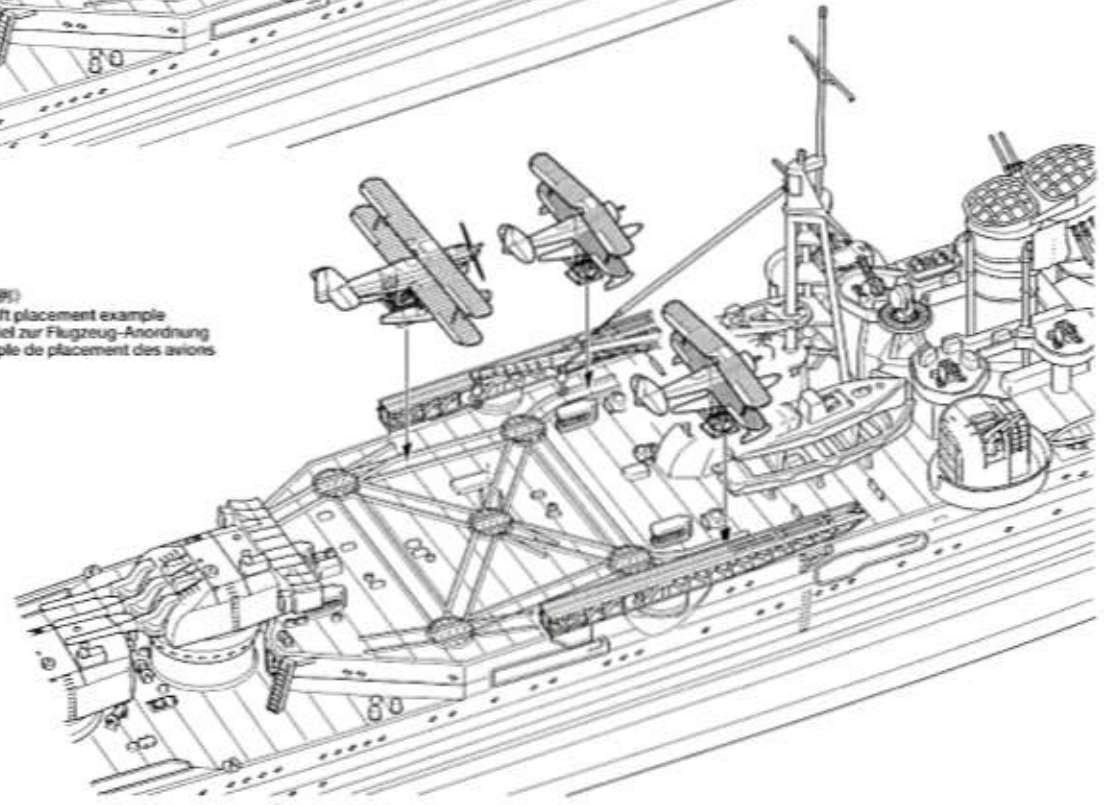


支柱
Support
Ständer
Tige de présentation



- ★図の部分に0.5mmの穴を開けます。
- ★Make 0.5mm hole.
- ★0.5mm Loch machen.
- ★Percer un trou de 0.5mm.

〔搭載例〕
Aircraft placement example
Beispiel zur Flugzeug-Anordnung
Exemple de placement des avions



PAINTING

《三隈の塗装》

日本の海軍艦艇の塗装には、戦時塗色と呼ばれる少し青みを帯びた濃い灰色が使われていました。軽巡洋艦時代の三隈も同様です。タミヤカラーの中では呉海軍工廠グレイトが最適といえるでしょう。喫水線以下の艦底はダルレッドと呼ばれる暗い赤色です。甲板は鉄板張りリノリウム張りが使われ、鉄板張りは船体と同色、リノリウム張りはリノリウム甲板色でした。また煙突の頂部はフラットブラックで塗装され、砲身基部の防水カバーはフラットホワイトでした。各部の塗装は組立図中に、艦載機や船体は塗装図中に指示してあります。

Painting the Mikuma

During WWII, Japanese Navy ships were painted in a dark, blue-tinged gray "wartime" color, and the Mikuma in its light cruiser form was no exception. The hull beneath the waterline was painted in a dark red "maroon" color. Decks were covered with both hull-colored steel plating and red brown linoleum material. Funnel tips were painted flat black, and the waterproof covers at the base of the gun barrels were flat white. Refer to the instruction manual for

the painting of the floatplanes and other details.

Lackieren der Mikuma

Während des Zweiten Weltkriegs waren die Schiffe der Japanischen Marine in einem dunklen, leicht bläulichen „Kriegszeit“-Grau lackiert und die Mikuma in ihrer Gestalt als Leichter Kreuzer machte keine Ausnahme. Der Rumpf unterhalb der Wasserlinie war in einer dunkelroten „Kastanien“-Farbe gestrichen. Die Decks waren sowohl mit Stahlplatten in Rumpffarbe als auch rotbraunem Linoleum beschichtet. Die Spitzen der Kamine waren mattschwarz lackiert und die wasserdichten Abdeckungen am Fuße der Kanonenrohre waren hellgrau. Beachten Sie die Bauanleitung bezüglich der Lackierung der Wasserflugzeuge und anderer Details.

Peinture du Mikuma

Durant la 2^{ème} G.M., les navires de la Marine japonaise étaient peints en gris bleuâtre foncé. C'était le cas du Mikuma en configuration de croiseur léger. Les œuvres vives, sous la ligne de flottaison, étaient rouge foncé marron. Les ponts étaient recouverts de panneaux d'acier de la couleur de la coque et de linéoleum brun rouge. L'extrémité des cheminées était noir mat et les manchons étanches à la base des tubes de canons étaient blanc mat. Se reporter au manuel de montage pour peindre les hydravions et autres détails.

APPLYING DECALS

《スライドマークのはり方》

- ①はりたいマークをハサミで切り抜きます。
- ②マークをぬるま湯に10秒ほどひたしてからタオル等の布の上に置きます。
- ③台紙のはしを手で持ち、はるところにマークをスライドさせてモデルに移してください。
- ④指に少し水をつけてマークをぬらしながら、正しい位置にずらしします。
- ⑤やわらかな布でマークの内側の気泡を押し出しながら、押しつけるようにして水分をとります。

DECAL APPLICATION

- ①Cut off decal from sheet.
- ②Dip the decal in tepid water for about 10 sec. and place on a clean cloth.
- ③Hold the backing sheet edge and slide decal onto the model.
- ④Move decal into position by wetting decal with finger.
- ⑤Press decal down gently with a soft cloth until excess water and air bubbles are gone.

ANBRINGUNG DES ABZIEHBILDES

- ①Abziehbild vom Blatt ausschneiden.
- ②Das Abziehbild ungefähr 10 Sek. in lauwarmes Wasser tauchen, dann auf sauberen Stoff legen.
- ③Die Kante der Unterlage halten und das Abziehbild auf das Modell schieben.
- ④Das Abziehbild an die richtige Stelle schieben und dabei mit dem Finger das Abziehbild naßmachen.
- ⑤Das Abziehbild leicht mit einem weichen Tuch andrücken, bis überschüssiges Wasser und Luftblasen entfernt sind.

APPLICATION DES DECALCOMANIES

- ①Découpez la décalcomanie de sa feuille.
- ②Plongez la décalcomanie dans de l'eau tiède pendant 10 secondes environ et poser sur un linge propre.
- ③Retenez la feuille de protection par le côté et glissez la décalcomanie sur le modèle réduit.
- ④Placez la décalcomanie à l'endroit voulu en la mouillant avec un de vos doigts.
- ⑤Pressez doucement la décalcomanie avec un tissu doux jusqu'à ce que l'eau en excès et les bulles aient disparu.

タミヤカスタマーサービス取次店

パーツの
お取り寄せに
大変便利な
お店です。

部品請求について

For use in Japan only!

★部品をなくしたり、こわした方は、このステッカーがはられたカスタマーサービス取次店でご注文いただけます。また、当社カスタマーサービスに直接ご注文する場合は、右記の方法でご注文することができます。詳しくは当社カスタマーサービスまでお問い合わせください。

①《郵便振替のご利用法》

郵便局の払込用紙の通信欄に下のリストを参考にITEM番号、スケール、製品名、部品名、部品コード、数量を必ずご記入ください。振込入住所欄にはお電話番号もお書きいただき、口座番号・00810-9-1118、加入者名・(株)タミヤでお振込ください。

②《代金引換のご利用法》

パーツ代金に加えて代引き手数料(315円)をご負担いただければ、電話またはホームページより代金引換

によるご注文をお受けいたします。

③《タミヤカードのご利用法》

タミヤカードをご利用の場合、代金はご指定金融機関の口座引き落としとなります。ご注文は電話またはホームページよりお受けいたします。

www.tamiya.com



Model
MAGAZINE
INTERNATIONAL

《タミヤモデルマガジン》
海外の一流モデラーの作品が豊富な写真で身近かに楽しめます。タミヤをはじめ、世界の製品をテーマに製作記事や資料など詳しく紹介。模型作りの参考に欠かせません。英語版、一部900円。(日本語訳つき)お求めは当社カスタマーサービスまでお問い合わせください。

1/350
Ship

1/350 日本軽巡洋艦 三隈 ITEM 78022

★価格は2009年7月現在のものです。諸事情により変更させていただきます。

部品名	税込価格	本体価格	部品コード
船底	1,575円	1,500円	19337078
喫水板	1,523円	1,450円	19337079
Aパーツ	1,544円	1,470円	19007190
Bパーツ	956円	910円	19007191
Cパーツ	735円	700円	19007192
Fパーツ	357円	340円	19007189
Hパーツ(2枚)	735円	700円	19007195
Lパーツ	945円	900円	19117035
Mパーツ	714円	680円	19117036
N・Pパーツ(2枚)	777円	740円	19117037
Xパーツ・展示台	525円	500円	10227018
エッチングパーツ	1,155円	1,100円	14707002
飛行機展示用支柱(6本)	263円	250円	19807063
金具袋(ポリキャップ含む)	609円	580円	19407251
ポリキャップ(大・10個)	210円	200円	19442022
ポリキャップ(小・8個)	210円	200円	10446168
マーク	315円	300円	11407035
ネームプレート	242円	230円	11437206
軍艦旗シート	231円	220円	11407033
説明図	525円	500円	11057283
塗装図	368円	350円	11257005

AFTER MARKET SERVICE CARD

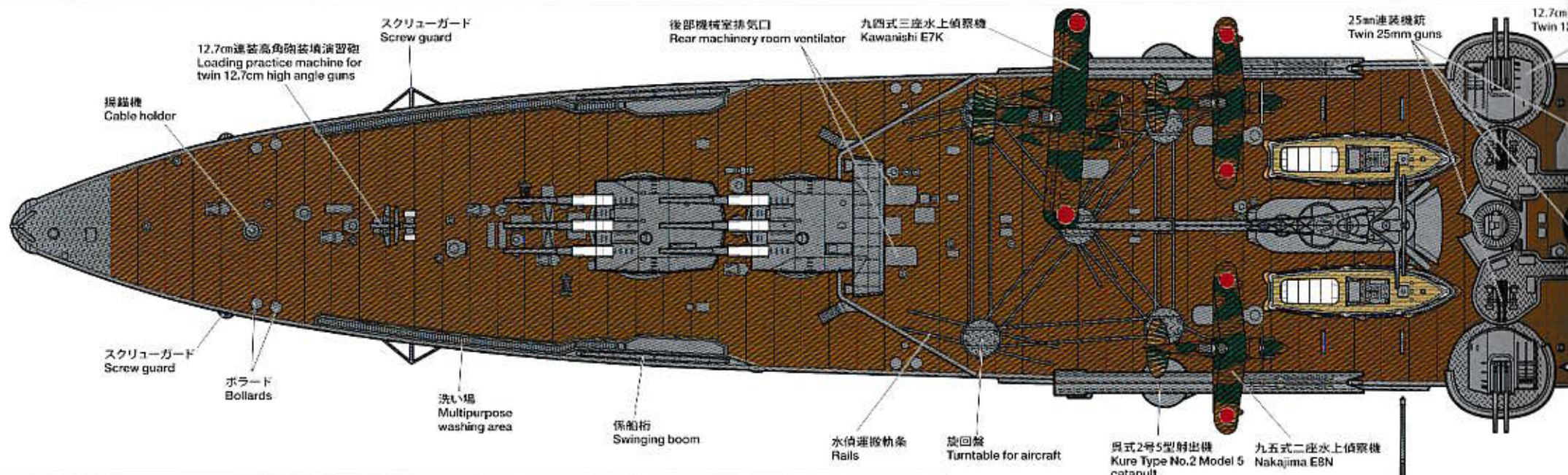
When purchasing replacement parts, please take or send this form to your local Tamiya dealer so that the parts required can be correctly identified. Please note that specifications, availability and price are subject to change without notice.

Parts code	ITEM 78022
19337078	Hull
19337079	Waterline Plate
19007190	A Parts
19007191	B Parts
19007192	C Parts
19007189	F Parts
19007195	H Parts (2 pcs.)
19117035	L Parts
19117036	M Parts
19117037	N & P Parts (2 pcs.)
10227018	X Parts & Display Base
14707002	Photo-Etched Parts
19807063	Support (6 pcs.)
19407251	Metal Parts Bag
19442022	Poly Cap (Large, 10 pcs.)
10446168	Poly Cap (Small, 8 pcs.)
11407035	Decal
11437206	Name Plate
11407033	Battle Flag Sheet
11057283	Instructions
11257005	Painting Guide

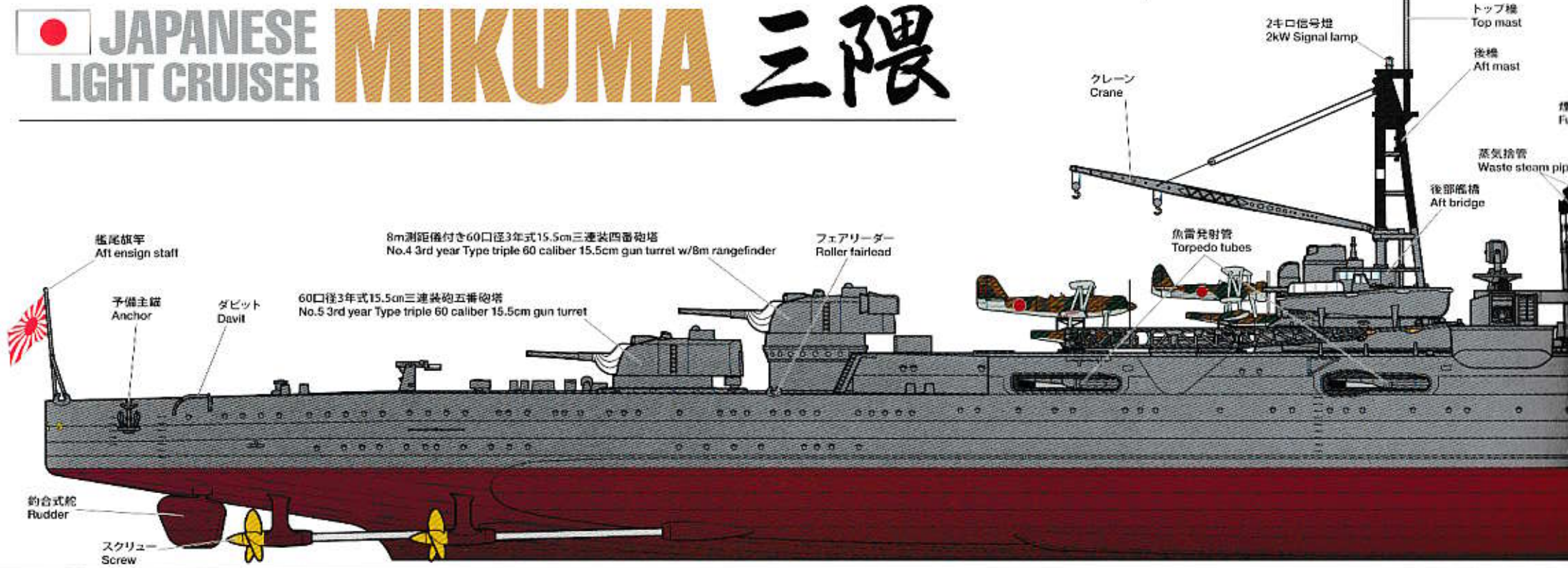
www.tamiya.com

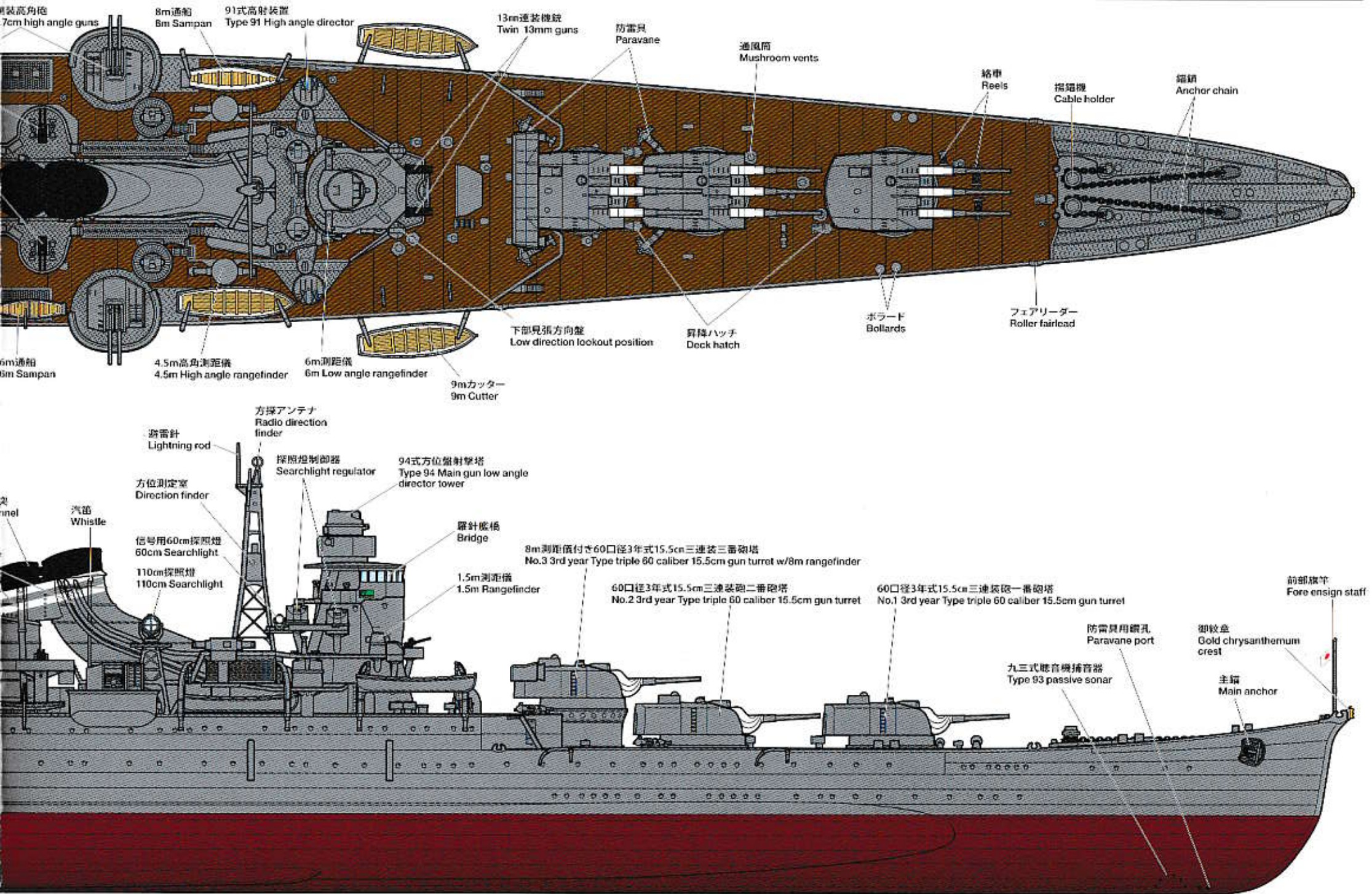
TAMIYA

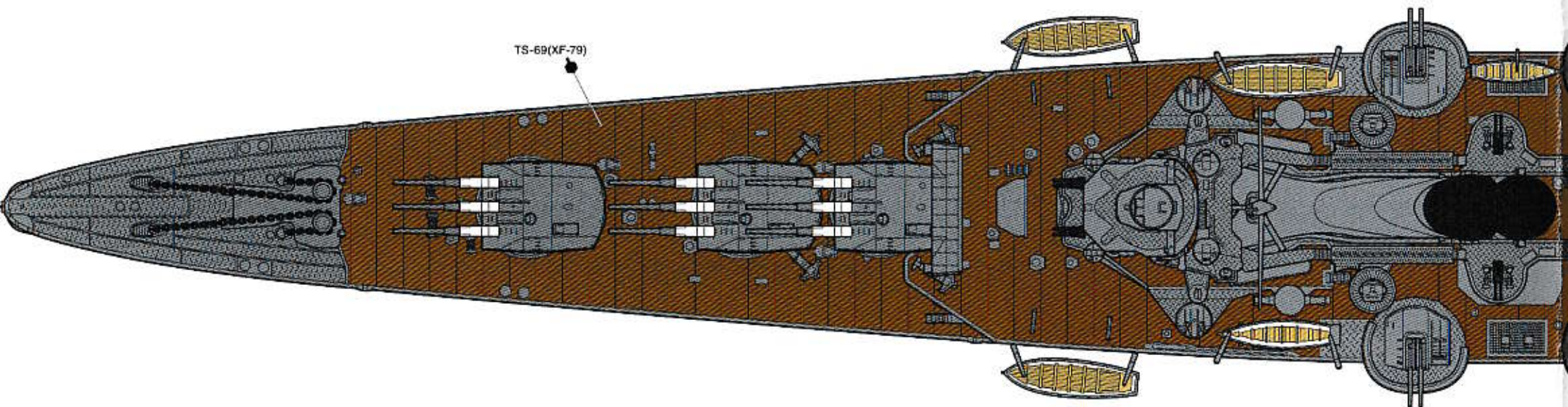
78022 1/350 Mikuma (11057283)



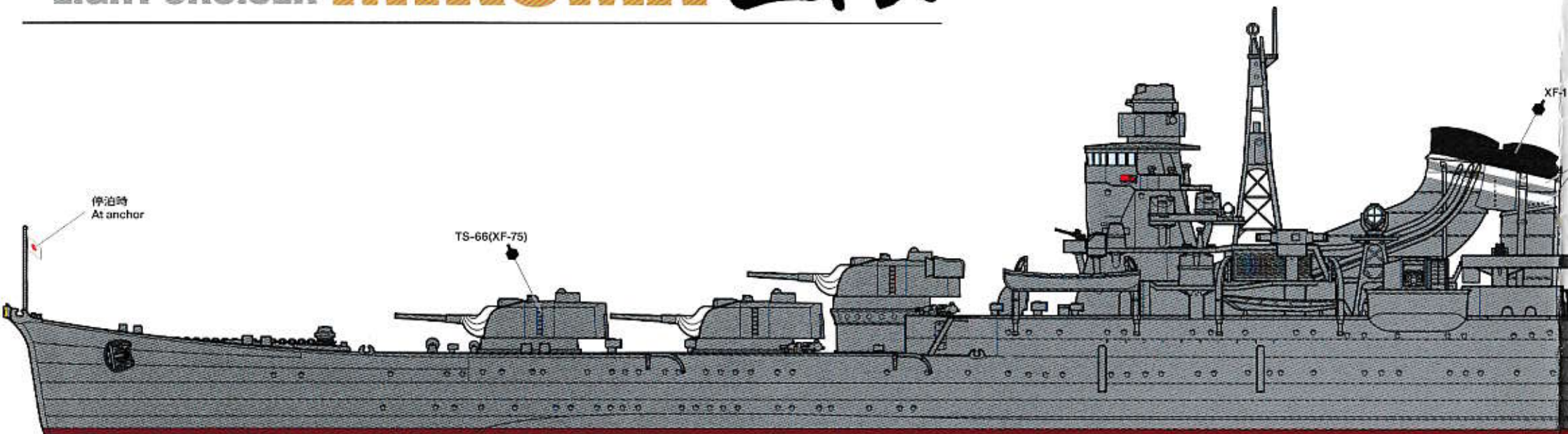

JAPANESE LIGHT CRUISER MIKUMA 三隈

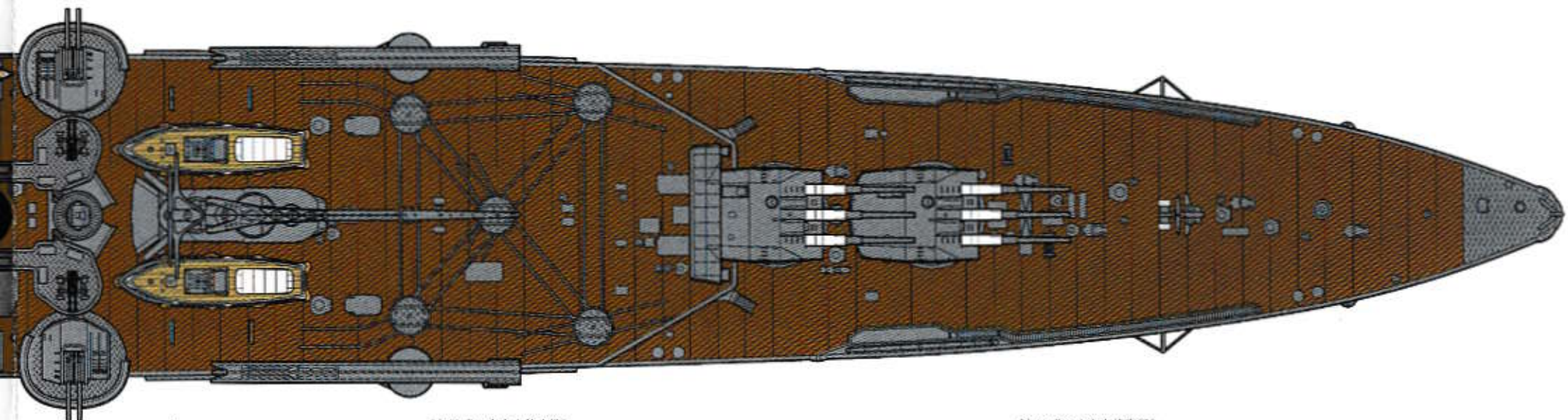






 **JAPANESE LIGHT CRUISER MIKUMA** 三隈

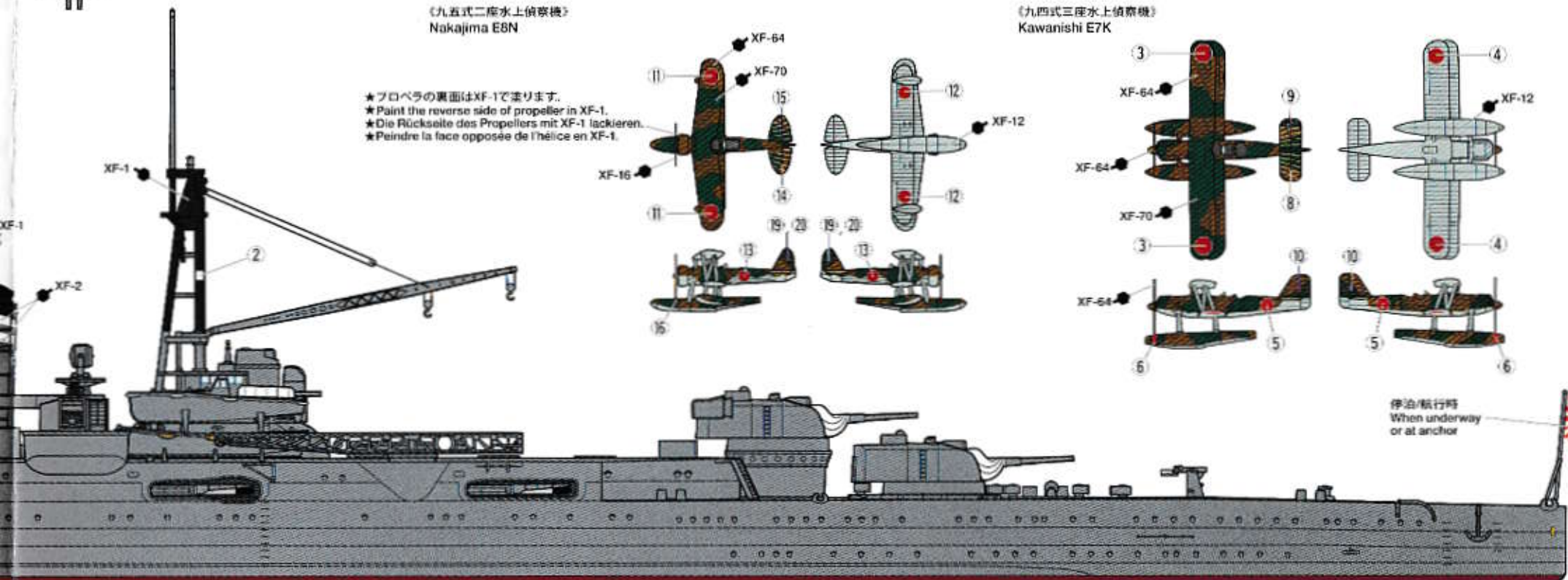
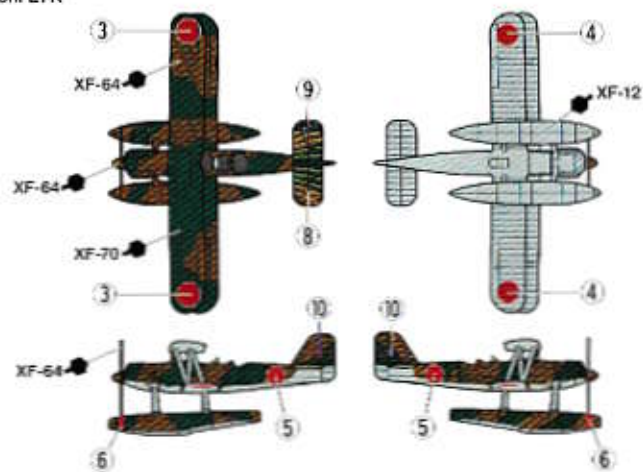
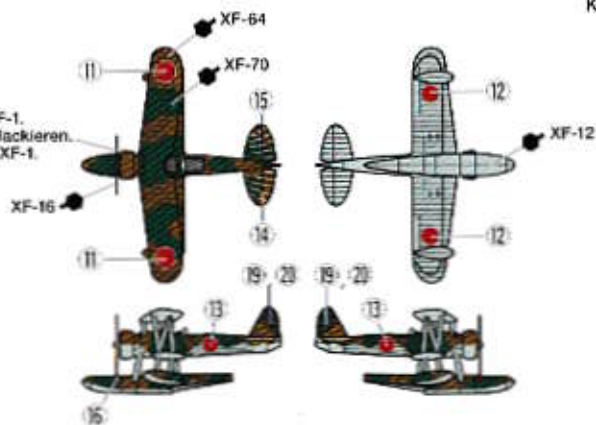




〔九五式二座水上偵察機〕
Nakajima E8N

〔九四式三座水上偵察機〕
Kawanishi E7K

- ★プロペラの裏面はXF-1で塗ります。
- ★Paint the reverse side of propeller in XF-1.
- ★Die Rückseite des Propellers mit XF-1 lackieren.
- ★Peindre la face opposée de l'hélice en XF-1.



停泊/航行時
When underway
or at anchor